

令和5年度中小企業実態調査委託費
(経済センサス - 活動調査等に関する再編加工に係る
委託事業)
報告書

令和6年3月
株式会社 日本アプライドリサーチ研究所

目次

1 事業目的.....	1
2 事業概要.....	1
3 事業内容（各統計の集計結果）	2
3-1 経済センサス.....	2
3-1-1 令和3年センサスの概況.....	2
3-1-2 平成28年センサスと令和3年センサスのパネル化集計	11
3-1-3 その他令和3年センサスによる集計	18
3-2 企業活動基本調査	28
3-3 法人企業統計調査	41
3-4 海外事業活動基本調査	42
3-5 中小企業実態基本調査	43
3-6 就業構造基本調査	44
3-7 賃金構造基本統計調査	45
3-8 賃金引上げ等の実態に関する調査.....	46
4 まとめ	47

1 事業目的

中小企業政策の企画立案及び2024年版中小企業白書・小規模企業白書の作成、感染症流行や物価高、賃上げ等による中小企業等への影響の分析等のための基礎資料として、中小企業等の実態を様々な側面より把握することを目的に、経済センサス - 活動調査等の再編加工を行う。

2 事業概要

本事業は上記の事業目的を達成するため、以下の統計の再編加工及び分析を行った。

- (1) 総務省「経済センサス - 基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス - 活動調査」、総務省「事業所・企業統計調査」
- (2) 経済産業省「経済産業省企業活動基本調査」
- (3) 財務省「法人企業統計調査」
- (4) 経済産業省「海外事業活動基本調査」
- (5) 中小企業庁「中小企業実態基本調査」
- (6) 総務省「就業構造基本調査」
- (7) 厚生労働省「賃金引上げ等の実態に関する調査」
- (8) 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

3 事業内容（各統計の集計結果）

3-1 経済センサス

本年度は令和3年度経済センサス活動調査（以下「令和3年センサス」という）の個票提供に伴い、基本的な情報を含めた集計を行った。その中には、平成28年度経済センサス活動調査（以下「平成28年センサス」という）との接続した集計も含まれる。

3-1-1 令和3年センサスの概況

図表1では産業別規模別企業数を集計した¹。規模の判定は中小企業基本法及び関連する政令に基づく²。

図表1 産業別規模別企業数（企業）

（単位：者）

産業名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
建設業	403,449	21,527	274	425,250
製造業	283,297	52,255	1,938	337,490
電気・ガス・熱供給・水道業	4,925	348	44	5,317
情報通信業	37,611	17,563	557	55,731
運輸業、郵便業	45,211	19,675	220	65,106
卸売業	144,201	58,231	1,399	203,831
小売業	427,267	99,871	2,073	529,211
金融業、保険業	27,341	1,306	276	28,923
不動産業、物品賃貸業	316,400	7,797	347	324,544
学術研究、専門・技術サービス業	173,981	28,766	809	203,556
宿泊業、飲食サービス業	365,011	59,532	513	425,056
生活関連サービス業、娯楽業	307,420	23,041	428	330,889
教育、学習支援業	81,851	12,209	125	94,185
医療、福祉	138,480	67,230	274	205,984
その他（「C鉱業、採石業、砂利採取業」+「Q複合サービス事業」+「R1サービス業」）	96,911	42,184	1,087	140,182
非一次産業計	2,853,356	511,535	10,364	3,375,255
非一次産業計（うち会社）	1,331,783	414,757	10,150	1,756,690
非一次産業計（うち個人事業者）	1,521,573	96,778	214	1,618,565

¹ 記載の産業大分類は一部をその他として「C 鉱業、採石業、砂利採取業」、「Q 複合サービス事業」、「R1 サービス業」を統合したものである

² <https://www.chusho.meti.go.jp/soshiki/teigi.html>

図表 2 では、産業別規模別で従業者総数を見ている。

図表 2 産業別規模別従業者総数（企業）

（単位：人）

産業名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
建設業	2,090,255	1,249,645	429,723	3,769,623
製造業	1,627,569	4,557,802	3,349,591	9,534,962
電気・ガス・熱供給・水道業	13,669	46,448	152,737	212,854
情報通信業	122,874	1,086,706	704,364	1,913,944
運輸業、郵便業	356,643	1,983,804	796,618	3,137,065
卸売業	456,848	1,998,242	817,098	3,272,188
小売業	1,115,177	3,347,417	2,806,880	7,269,474
金融業、保険業	106,583	121,442	1,028,458	1,256,483
不動産業,物品賃貸業	786,266	456,196	291,396	1,533,858
学術研究, 専門・技術サービス業	443,998	677,621	483,587	1,605,206
宿泊業,飲食サービス業	1,054,376	2,346,764	951,272	4,352,412
生活関連サービス業, 娯楽業	658,135	971,520	358,252	1,987,907
教育,学習支援業	171,389	403,461	117,939	692,789
医療, 福祉	428,021	1,502,173	228,413	2,158,607
その他（「C鉱業, 採石業, 砂利採取業」+「Q複合サービス事業」+「R1サービス業」）	294,119	2,623,279	1,868,502	4,785,900
非一次産業計	9,725,922	23,372,520	14,384,830	47,483,272
非一次産業計（うち会社）	6,369,561	22,222,113	14,365,147	42,956,821
非一次産業計（うち個人事業者）	3,356,361	1,150,407	19,683	4,526,451

図表 3 は産業別規模別常用雇用者数を見たものである。

図表 3 産業別規模別常用雇用者数（企業）

（単位：人）

産業名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
建設業	1,334,699	1,166,674	427,079	2,928,452
製造業	1,107,128	4,409,839	3,380,707	8,897,674
電気・ガス・熱供給・水道業	7,049	44,965	152,036	204,050
情報通信業	68,164	1,041,509	697,658	1,807,331
運輸業、郵便業	270,001	1,914,078	785,286	2,969,365
卸売業	216,994	1,846,850	831,225	2,895,069
小売業	437,778	3,120,836	2,764,678	6,323,292
金融業、保険業	63,382	116,583	1,026,521	1,206,486
不動産業,物品賃貸業	274,488	434,680	285,780	994,948
学術研究、専門・技術サービス業	208,519	611,858	468,907	1,289,284
宿泊業,飲食サービス業	459,149	2,200,326	921,605	3,581,080
生活関連サービス業、娯楽業	257,100	905,919	342,597	1,505,616
教育,学習支援業	59,986	367,583	106,770	534,339
医療、福祉	235,163	1,388,982	226,279	1,850,424
その他（「C鉱業、採石業、砂利採取業」+「Q複合サービス事業」+「R1サービス業」）	131,585	2,442,045	1,829,911	4,403,541
非一次産業計	5,131,185	22,012,727	14,247,039	41,390,951
非一次産業計（うち会社）	3,885,392	20,990,917	14,227,935	39,104,244
非一次産業計（うち個人事業者）	1,245,793	1,021,810	19,104	2,286,707

図表 4 では産業別規模別で売上高を見ている。

図表 4 産業別規模別売上高（企業）

（単位：百万円）

産業名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
建設業	40,366,548	45,016,370	34,467,717	119,850,634
製造業	24,681,237	127,300,987	234,290,586	386,272,809
電気・ガス・熱供給・水道業	1,427,653	2,534,688	32,159,469	36,121,811
情報通信業	2,760,083	25,718,693	45,781,841	74,260,617
運輸業、郵便業	5,989,583	30,156,086	23,236,963	59,382,633
卸売業	21,209,815	139,117,648	146,785,629	307,113,093
小売業	13,449,405	65,818,202	75,957,119	155,224,725
金融業、保険業	4,470,871	5,215,510	81,532,494	91,218,876
不動産業、物品賃貸業	15,137,062	18,518,921	23,586,778	57,242,761
学術研究、専門・技術サービス業	5,985,873	12,962,048	24,589,753	43,537,675
宿泊業、飲食サービス業	3,980,971	11,174,441	5,479,726	20,635,138
生活関連サービス業、娯楽業	4,431,177	15,803,557	6,417,464	26,652,197
教育、学習支援業	466,643	1,962,771	939,302	3,368,716
医療、福祉	2,634,936	8,011,511	1,883,024	12,529,472
その他（「C鉱業、採石業、砂利採取業」＋「Q複合サービス事業」＋「R1サービス業」）	4,019,916	19,806,596	20,399,653	44,226,165
非一次産業計	151,011,773	529,118,030	757,507,519	1,437,637,323
非一次産業計（うち会社）	134,456,829	520,726,665	757,372,195	1,412,555,690
非一次産業計（うち個人事業者）	16,554,945	8,391,365	135,324	25,081,633

図表 5 では産業別規模別で付加価値額を見ている。

図表 5 産業別規模別付加価値額（企業）

(単位：百万円)

産業名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
建設業	9,719,350	8,581,529	5,655,225	23,956,104
製造業	6,190,423	25,463,920	33,241,918	64,896,261
電気・ガス・熱供給・水道業	325,755	428,562	3,326,472	4,080,788
情報通信業	656,316	7,953,866	10,623,503	19,233,685
運輸業、郵便業	1,550,405	8,267,776	2,316,656	12,134,837
卸売業	2,008,763	12,508,895	8,791,163	23,308,821
小売業	2,788,524	10,614,674	9,943,440	23,346,639
金融業、保険業	646,230	1,222,886	11,367,123	13,236,239
不動産業、物品賃貸業	4,293,511	3,566,212	3,723,854	11,583,577
学術研究、専門・技術サービス業	3,056,503	5,846,040	9,675,947	18,578,489
宿泊業、飲食サービス業	1,273,872	3,476,173	1,320,026	6,070,072
生活関連サービス業、娯楽業	1,153,049	2,651,485	804,497	4,609,032
教育、学習支援業	169,146	833,189	370,256	1,372,591
医療、福祉	1,300,080	4,250,453	799,213	6,349,746
その他（「C鉱業、採石業、砂利採取業」＋「Q複合サービス事業」＋「R1サービス業」）	1,232,405	8,088,540	8,162,333	17,483,277
非一次産業計	36,364,332	103,754,201	110,121,623	250,240,157
非一次産業計（うち会社）	29,954,449	100,336,580	110,067,716	240,358,745
非一次産業計（うち個人事業者）	6,409,883	3,417,621	53,907	9,881,411

図表 6 は都道府県別規模別に企業数を見たものである。

図表 6 都道府県別規模別企業数（企業）

（単位：者）

都道府県番号	都道府県名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
01	北海道	111,552	20,322	242	132,116
02	青森県	30,741	5,146	42	35,929
03	岩手県	28,411	4,834	50	33,295
04	宮城県	47,232	8,791	119	56,142
05	秋田県	25,147	3,895	24	29,066
06	山形県	30,178	4,415	53	34,646
07	福島県	45,930	7,305	55	53,290
08	茨城県	63,189	9,629	82	72,900
09	栃木県	46,468	7,073	80	53,621
10	群馬県	50,779	7,776	87	58,642
11	埼玉県	129,638	20,475	228	150,341
12	千葉県	97,252	16,852	209	114,313
13	東京都	340,304	78,709	4,582	423,595
14	神奈川県	156,138	27,537	522	184,197
15	新潟県	57,987	9,106	123	67,216
16	富山県	26,750	4,640	82	31,472
17	石川県	31,827	5,012	78	36,917
18	福井県	23,382	3,486	46	26,914
19	山梨県	25,185	3,341	26	28,552
20	長野県	58,519	8,032	111	66,662
21	岐阜県	55,559	8,867	88	64,514
22	静岡県	93,732	14,995	190	108,917
23	愛知県	161,194	34,119	599	195,912
24	三重県	39,503	6,879	77	46,459
25	滋賀県	27,434	4,761	55	32,250
26	京都府	64,233	10,589	177	74,999
27	大阪府	218,624	43,029	966	262,619
28	兵庫県	113,737	20,293	272	134,302
29	奈良県	25,807	4,255	21	30,083
30	和歌山県	27,879	3,938	19	31,836
31	鳥取県	12,318	2,305	18	14,641
32	島根県	16,866	2,684	22	19,572
33	岡山県	42,494	7,618	88	50,200
34	広島県	66,177	11,742	150	78,069
35	山口県	28,834	5,294	46	34,174
36	徳島県	20,414	2,823	22	23,259
37	香川県	24,590	4,003	48	28,641
38	愛媛県	34,069	5,536	63	39,668
39	高知県	19,678	2,725	19	22,422
40	福岡県	109,179	21,757	304	131,240
41	佐賀県	19,048	3,335	22	22,405
42	長崎県	32,972	5,264	31	38,267
43	熊本県	40,033	6,745	52	46,830
44	大分県	27,383	4,584	32	31,999
45	宮崎県	27,508	4,353	39	31,900
46	鹿児島県	39,777	6,003	47	45,827
47	沖縄県	37,705	6,663	56	44,424
XX	全国	2,853,356	511,535	10,364	3,375,255

図表 7 は都道府県別規模別で従業者総数をみたものである。

図表 7 都道府県別規模別従業者総数（企業）

（単位：人）

都道府県番号	都道府県名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
01	北海道	379,980	820,496	221,674	1,422,150
02	青森県	100,579	195,625	27,640	323,844
03	岩手県	95,922	181,866	34,161	311,949
04	宮城県	166,830	367,796	86,105	620,731
05	秋田県	81,953	152,013	21,665	255,631
06	山形県	97,802	178,776	27,221	303,799
07	福島県	161,532	303,674	63,404	528,610
08	茨城県	222,682	385,179	83,852	691,713
09	栃木県	160,591	265,801	68,465	494,857
10	群馬県	169,907	325,723	105,804	601,434
11	埼玉県	446,895	882,350	298,329	1,627,574
12	千葉県	332,264	670,306	318,154	1,320,724
13	東京都	1,147,927	5,039,782	7,782,073	13,969,782
14	神奈川県	523,524	1,238,303	654,363	2,416,190
15	新潟県	198,559	390,774	108,997	698,330
16	富山県	93,468	198,921	66,110	358,499
17	石川県	107,894	221,068	57,965	386,927
18	福井県	82,917	142,424	29,081	254,422
19	山梨県	82,197	132,661	17,588	232,446
20	長野県	189,785	346,088	77,612	613,485
21	岐阜県	191,080	370,702	107,027	668,809
22	静岡県	315,007	655,483	195,100	1,165,590
23	愛知県	578,466	1,677,360	879,067	3,134,893
24	三重県	137,509	266,189	53,651	457,349
25	滋賀県	93,576	192,750	51,759	338,085
26	京都府	214,481	443,573	235,978	894,032
27	大阪府	763,692	2,130,545	1,328,011	4,222,248
28	兵庫県	382,435	803,910	224,455	1,410,800
29	奈良県	85,971	147,422	10,637	244,030
30	和歌山県	88,983	138,987	27,630	255,600
31	鳥取県	41,891	84,919	5,096	131,906
32	島根県	57,675	99,896	15,036	172,607
33	岡山県	149,302	323,080	100,166	572,548
34	広島県	228,166	533,672	251,422	1,013,260
35	山口県	99,602	200,694	70,694	370,990
36	徳島県	66,408	98,850	18,652	183,910
37	香川県	84,037	172,269	38,386	294,692
38	愛媛県	118,870	218,231	44,182	381,283
39	高知県	64,265	97,849	15,418	177,532
40	福岡県	376,444	942,167	386,198	1,704,809
41	佐賀県	64,714	118,177	22,894	205,785
42	長崎県	108,287	178,588	15,924	302,799
43	熊本県	136,952	252,003	30,711	419,666
44	大分県	93,235	180,286	18,485	292,006
45	宮崎県	89,683	152,903	15,502	258,088
46	鹿児島県	133,504	221,594	32,276	387,374
47	沖縄県	118,479	230,795	40,210	389,484
XX	全国	9,725,922	23,372,520	14,384,830	47,483,272

図表 8 は都道府県別規模別に常用雇用者数を見たものである。

図表 8 都道府県別規模別常用雇用者数（企業）

（単位：人）

都道府県番号	都道府県名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
01	北海道	204,531	765,305	217,955	1,187,791
02	青森県	52,675	182,414	26,575	261,664
03	岩手県	50,945	169,350	33,887	254,182
04	宮城県	89,539	343,019	86,150	518,708
05	秋田県	43,140	142,065	19,873	205,078
06	山形県	48,905	166,721	33,710	249,336
07	福島県	85,696	284,621	62,905	433,222
08	茨城県	118,368	361,552	71,212	551,132
09	栃木県	83,133	247,920	68,618	399,671
10	群馬県	87,938	305,370	105,405	498,713
11	埼玉県	238,755	832,858	295,544	1,367,157
12	千葉県	175,985	627,547	317,703	1,121,235
13	東京都	610,896	4,795,901	7,723,682	13,130,479
14	神奈川県	274,721	1,167,745	651,300	2,093,766
15	新潟県	106,827	366,324	103,290	576,441
16	富山県	50,851	186,827	64,589	302,267
17	石川県	56,232	208,012	57,233	321,477
18	福井県	43,506	133,148	28,853	205,507
19	山梨県	41,561	123,492	17,500	182,553
20	長野県	95,683	323,732	77,176	496,591
21	岐阜県	100,737	348,548	107,782	557,067
22	静岡県	167,377	618,071	199,155	984,603
23	愛知県	315,353	1,589,565	876,201	2,781,119
24	三重県	72,802	250,432	51,439	374,673
25	滋賀県	48,581	180,018	46,180	274,779
26	京都府	107,986	412,625	230,556	751,167
27	大阪府	407,502	2,018,953	1,308,509	3,734,964
28	兵庫県	196,935	753,037	221,346	1,171,318
29	奈良県	41,975	137,188	10,390	189,553
30	和歌山県	44,225	129,934	27,401	201,560
31	鳥取県	22,651	79,245	5,006	106,902
32	島根県	30,645	92,094	14,425	137,164
33	岡山県	79,516	304,264	99,536	483,316
34	広島県	121,810	501,999	248,389	872,198
35	山口県	53,956	189,336	70,227	313,519
36	徳島県	32,350	91,415	18,491	142,256
37	香川県	43,772	161,254	38,093	243,119
38	愛媛県	63,059	203,229	43,691	309,979
39	高知県	32,282	90,773	15,263	138,318
40	福岡県	201,572	884,208	381,221	1,467,001
41	佐賀県	34,172	109,341	22,212	165,725
42	長崎県	56,213	166,010	15,590	237,813
43	熊本県	70,922	234,383	30,365	335,670
44	大分県	49,358	169,174	18,327	236,859
45	宮崎県	45,527	142,438	15,296	203,261
46	鹿児島県	66,620	205,660	31,738	304,018
47	沖縄県	63,400	215,610	37,050	316,060
XX	全国	5,131,185	22,012,727	14,247,039	41,390,951

図表 9 は都道府県別規模別で付加価値額をみたものである。

図表 9 都道府県別規模別付加価値額（企業）

（単位：百万円）

都道府県番号	都道府県名	1_小規模企業	2_中規模企業	3_大規模企業	合計
01	北海道	1,299,847	3,084,813	991,582	5,376,241
02	青森県	284,074	712,983	173,936	1,170,993
03	岩手県	271,274	700,471	183,900	1,155,645
04	宮城県	559,661	1,567,247	821,917	2,948,826
05	秋田県	234,695	550,563	73,783	859,040
06	山形県	270,824	791,045	125,896	1,187,765
07	福島県	511,405	1,124,972	219,661	1,856,038
08	茨城県	741,289	1,641,692	498,597	2,881,578
09	栃木県	527,013	1,066,306	414,915	2,008,234
10	群馬県	567,091	1,323,473	583,738	2,474,302
11	埼玉県	1,631,565	3,541,219	1,498,876	6,671,661
12	千葉県	1,203,626	2,443,552	1,105,738	4,752,916
13	東京都	6,770,447	28,491,083	67,255,279	102,516,809
14	神奈川県	2,221,838	5,138,967	3,718,995	11,079,800
15	新潟県	603,319	1,533,969	541,188	2,678,476
16	富山県	365,681	849,166	374,849	1,589,696
17	石川県	350,738	881,218	342,572	1,574,529
18	福井県	278,710	666,355	183,230	1,128,294
19	山梨県	253,324	530,156	141,399	924,879
20	長野県	555,641	1,510,717	579,482	2,645,841
21	岐阜県	628,081	1,648,813	543,419	2,820,313
22	静岡県	1,094,326	2,763,584	1,319,738	5,177,648
23	愛知県	2,215,593	7,074,079	6,382,433	15,672,105
24	三重県	470,264	1,082,930	292,695	1,845,890
25	滋賀県	324,713	795,725	235,409	1,355,847
26	京都府	700,885	1,751,866	2,491,336	4,944,087
27	大阪府	3,161,501	9,996,461	11,134,659	24,292,620
28	兵庫県	1,333,331	3,372,020	1,569,016	6,274,368
29	奈良県	261,115	491,419	70,450	822,984
30	和歌山県	262,933	525,055	91,797	879,785
31	鳥取県	125,089	326,913	24,575	476,577
32	島根県	162,681	361,495	121,648	645,823
33	岡山県	516,307	1,338,406	440,165	2,294,878
34	広島県	805,788	2,258,183	1,327,975	4,391,947
35	山口県	344,897	827,522	424,945	1,597,365
36	徳島県	183,834	390,996	123,173	698,003
37	香川県	276,784	767,249	287,302	1,331,335
38	愛媛県	347,286	875,533	294,788	1,517,607
39	高知県	186,272	363,030	72,704	622,006
40	福岡県	1,316,692	3,748,989	2,062,032	7,127,713
41	佐賀県	180,812	456,229	113,967	751,008
42	長崎県	309,334	612,772	77,707	999,812
43	熊本県	408,419	962,040	232,832	1,603,291
44	大分県	278,872	682,329	130,214	1,091,415
45	宮崎県	263,105	605,950	69,349	938,404
46	鹿児島県	399,588	806,594	197,265	1,403,447
47	沖縄県	303,767	718,049	160,499	1,182,316
XX	全国	36,364,332	103,754,201	110,121,623	250,240,157

3-1-2 平成 28 年センサスと令和 3 年センサスのパネル化集計

本項は平成 28 年センサスと令和 3 年センサスの個票を接続（以下パネル化とする）し、集計したもののについて取りまとめる。

存続、開業、廃業の定義はそれぞれ以下の通り

存続：両方の年に回答した企業

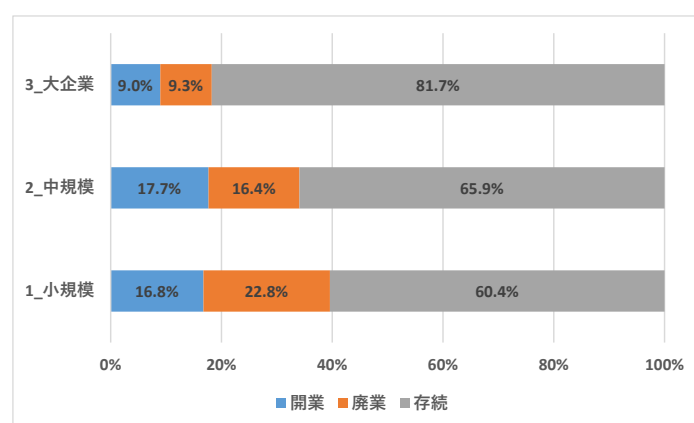
開業：片方の年に回答した企業のうち、新しい年次に所属するもの

廃業：片方の年に回答した企業のうち、古い年次に所属するもの

なお、存続企業のうち、2016 年から 2021 年の間に企業分割をした企業は除く。

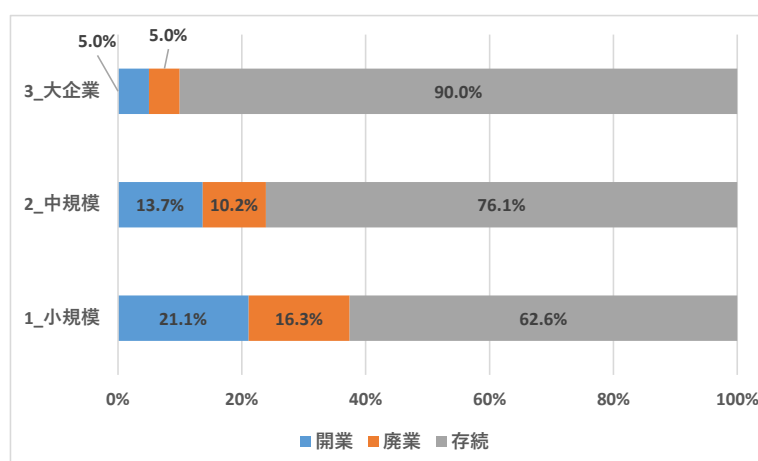
図表 10 は規模別に存続、開業、廃業の企業数を見たものである。

図表 10 規模別存続・開業・廃業企業数の割合



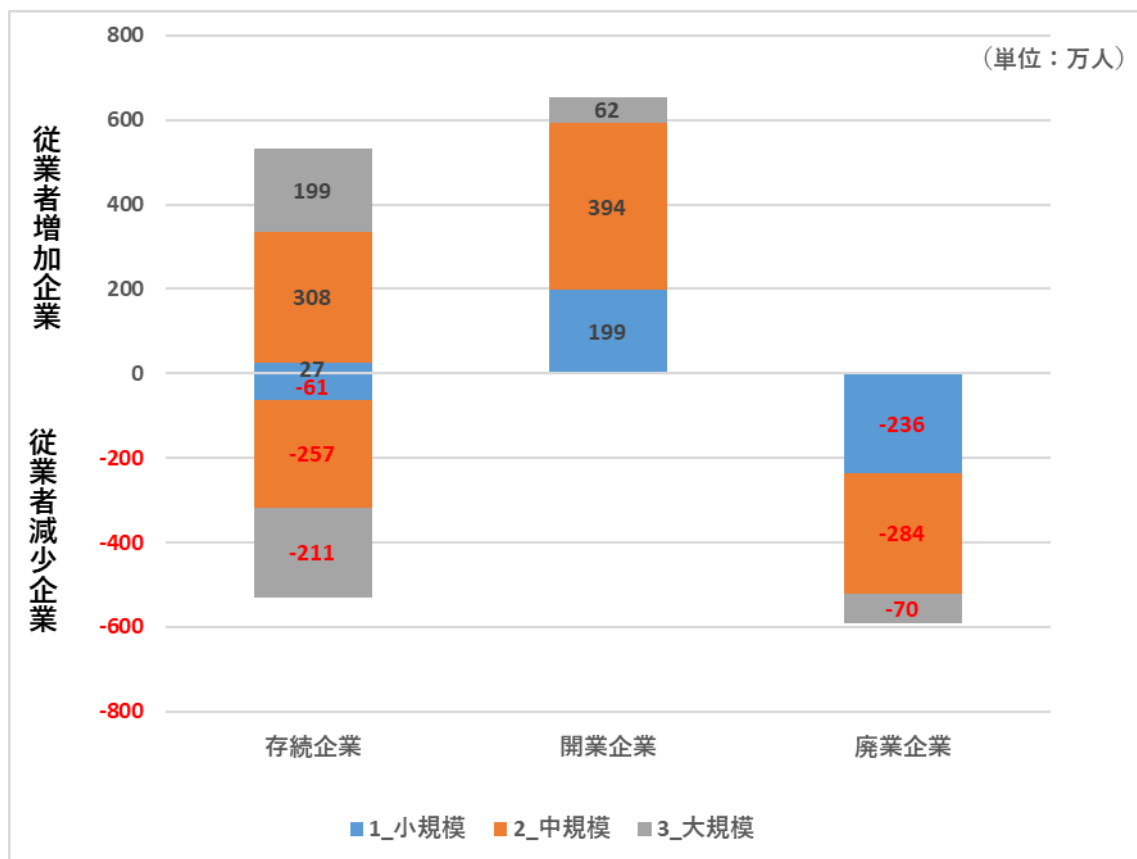
図表 11 は規模別に存続、開業、廃業の付加価値額を見たものである。

図表 11 規模別存続・開業・廃業企業の付加価値額の割合



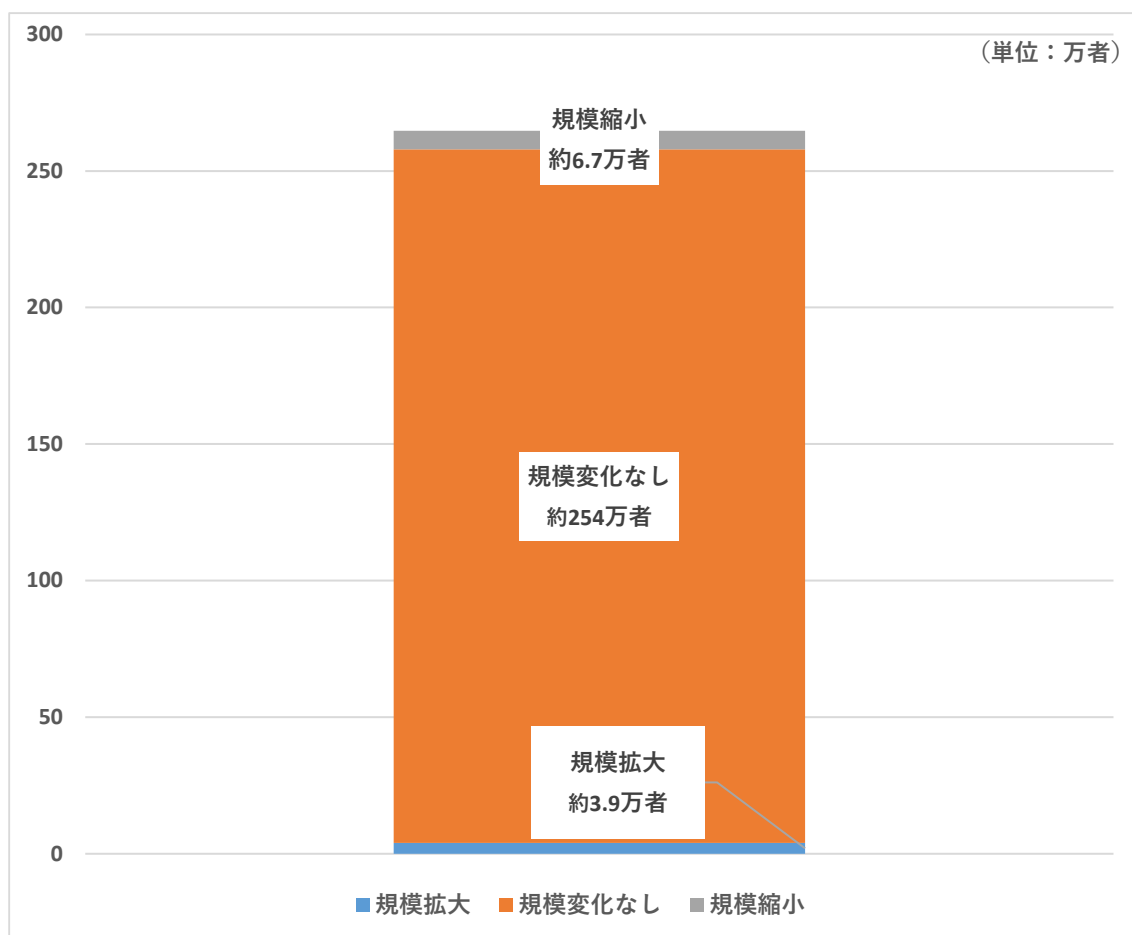
図表 12 は、存続企業、開業企業、廃業企業それぞれについて、平成 28 年から令和 3 年にかけて従業員が増加した企業と減少した企業に分類したうえで規模別に従業員数の増減を見たものである。

図表 12 規模別従業員の増減



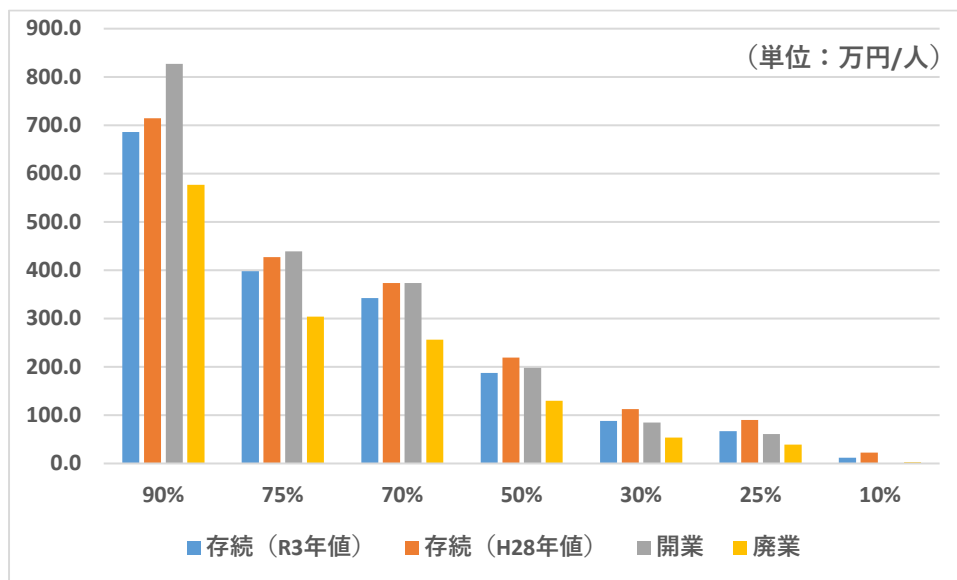
図表 13 は存続企業の企業規模を平成 28 年と令和 3 年で比較し、変化の有無を見たものである。図表うち、規模拡大とは中小企業から大企業、もしくは、小規模企業から中規模企業又は大規模企業となった企業を指す。規模縮小とは大企業から中小企業、もしくは中規模企業から小規模企業となった企業を指す。

図表 13 存続企業の企業規模変化



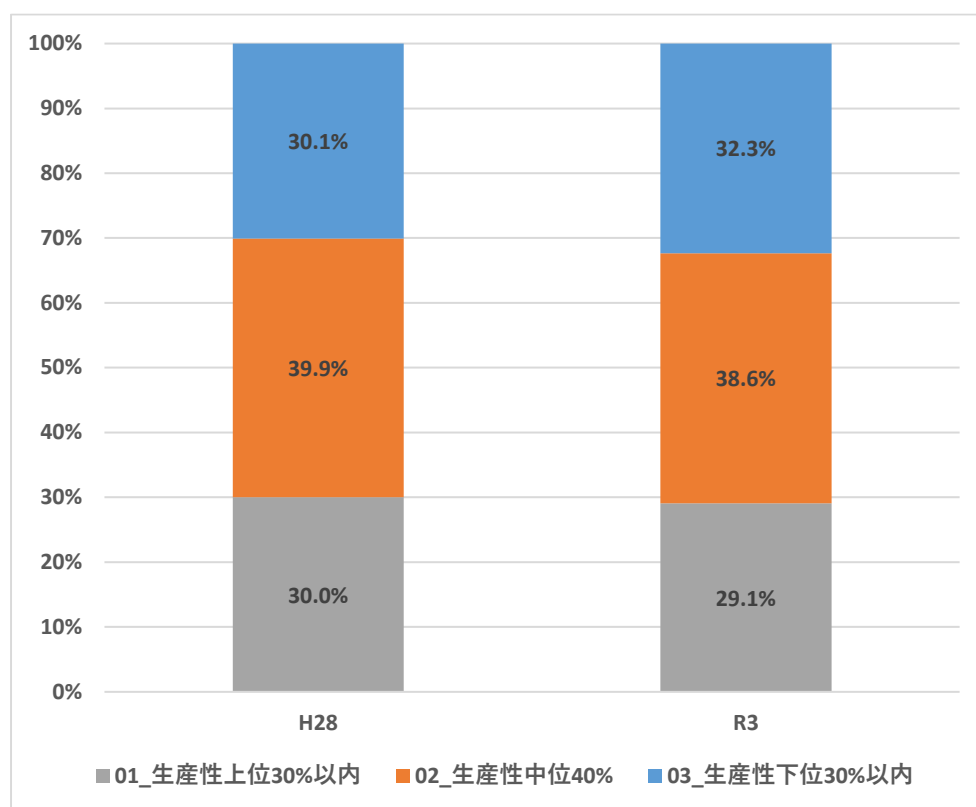
図表 14 は存続・開業・廃業別に労働生産性について分位点で見たものである。また、存続企業については平成 28 年時点と令和 3 年時点の 2 時点で労働生産性を示している。

図表 14 存続・開業・廃業別労働生産性



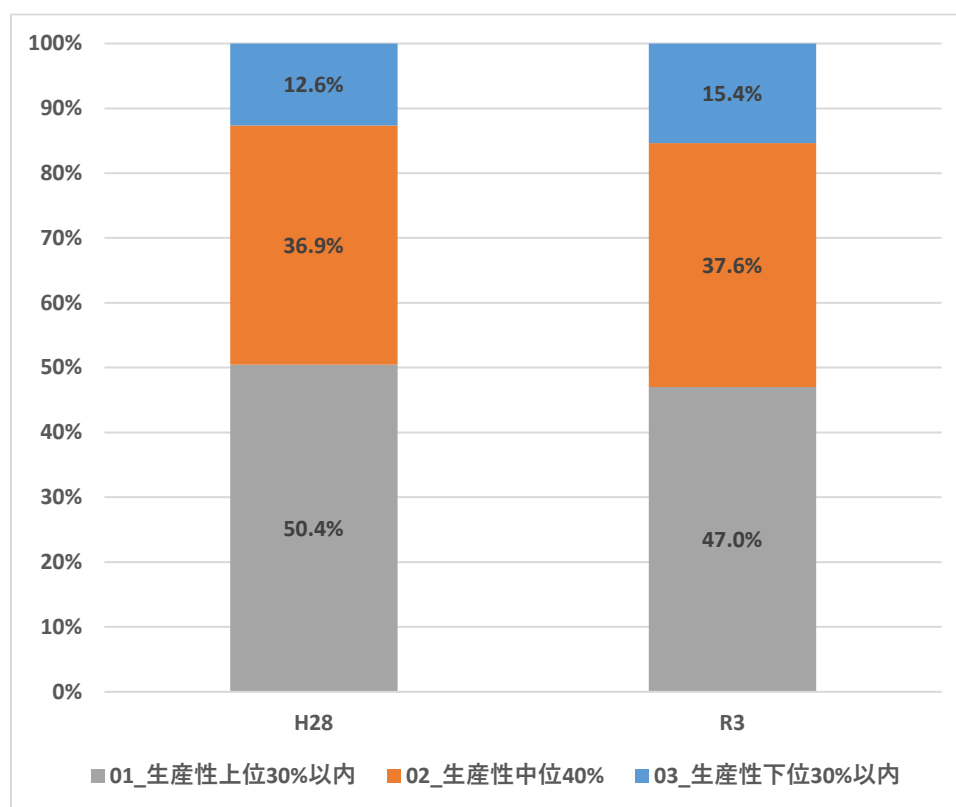
図表 15 は平成 28 年、令和 3 年の各企業について労働生産性の上位 30%、下位 30%、その他（中位と表記）の 3 種に分類し、企業数割合を見たものである。なお、労働生産性の分類の閾値は平成 28 年の数値である。平成 28 年において 3 : 4 : 3 から少し下位にずれている理由としては、労働生産性が 0 の企業が多数ある事や閾値と同値の企業が複数ある可能性が挙げられる。

図表 15 労働生産性区分別企業数割合



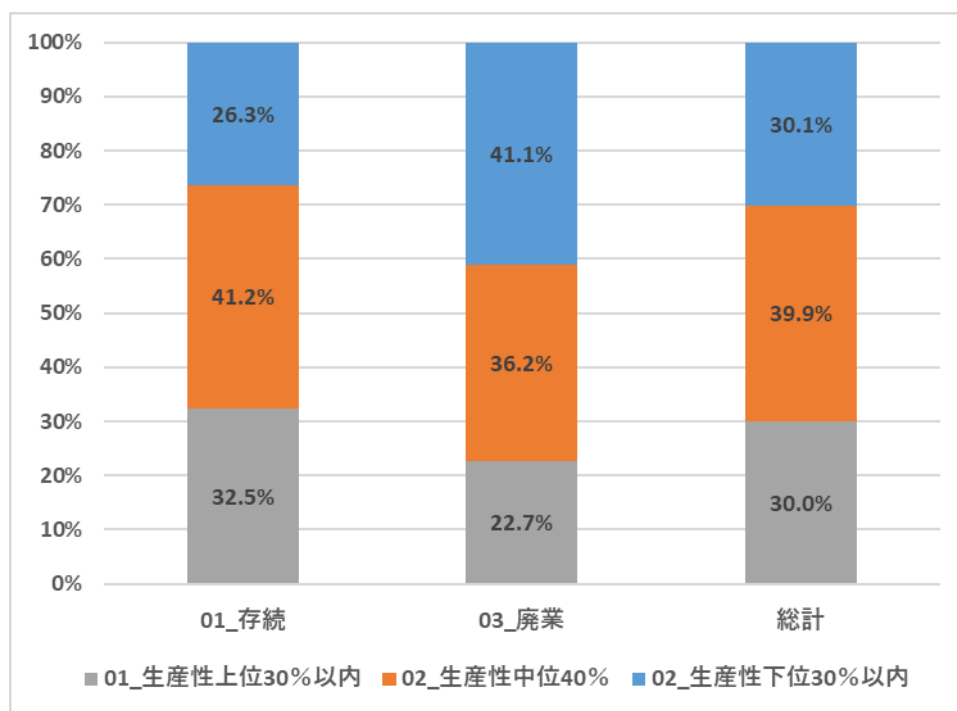
図表 16 は図表 15 と同様の方法で従業者数についても確認を行った。

図表 16 労働生産性区分別従業者数割合



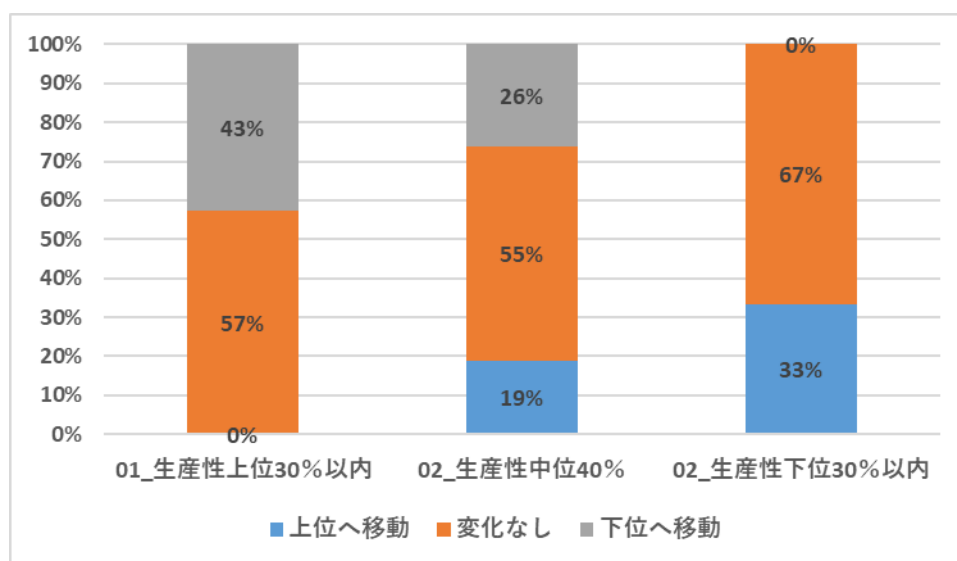
図表 17 は存続企業と廃業企業について、労働生産性の分類別に企業数を見たものである。労働生産性の分類については図表 15 と同様の方法で行った。

図表 17 存続・廃業別労働生産性区分別企業数



図表 18 は存続企業について労働生産性の分類別に移動状況を見たものである。労働生産性の分類については図表 15 と同様の方法で行った。

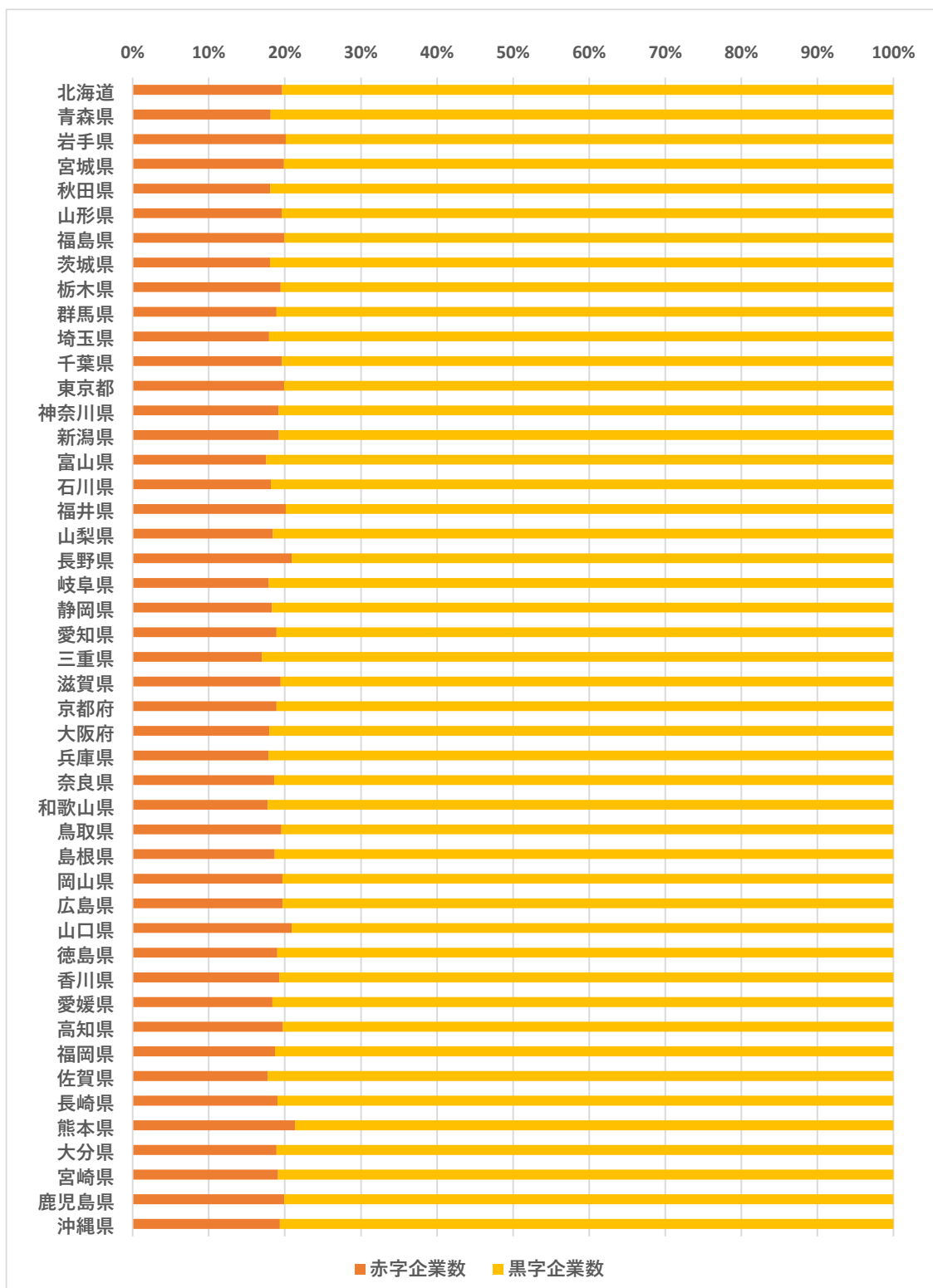
図表 18 存続企業の労働生産性区分間移動



3-1-3 その他令和3年センサスによる集計

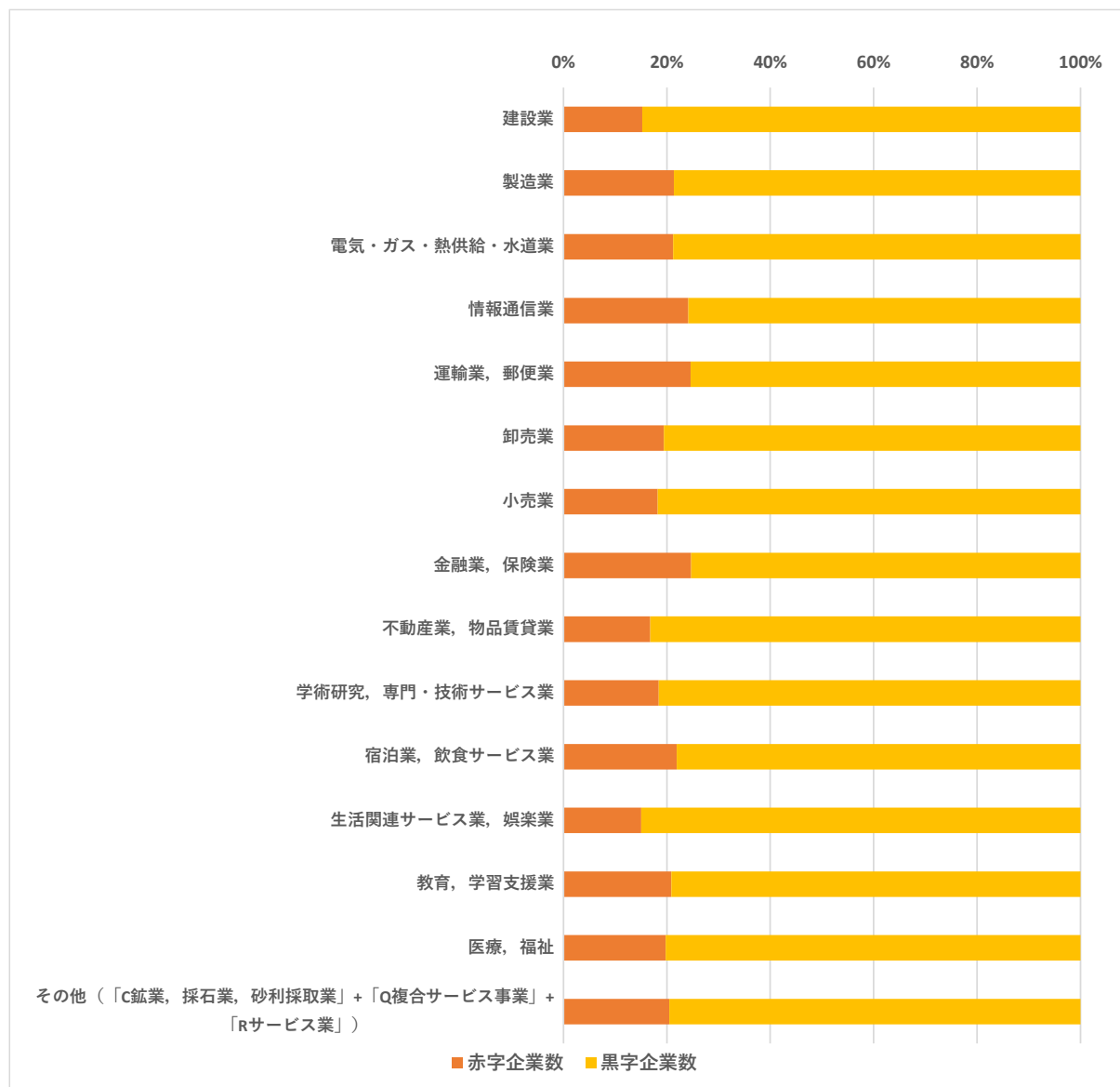
図表 19 は都道府県別に赤字企業と黒字企業の割合を見たものである。

図表 19 都道府県別赤字黒字企業割合



図表 20 は産業別に赤字黒字企業割合を見たものである

図表 20 産業別赤字黒字企業割合



図表 21 は大都市について規模別企業数を見たものである。

図表 21 大都市別規模別企業数

(単位：者)

	【企業数】			
	中小企業		大規模企業	規模合計
		うち小規模企業		
札幌市	43,655	35,822	181	43,836
仙台市	24,872	20,205	88	24,960
さいたま市	23,404	19,456	78	23,482
千葉市	15,230	12,344	77	15,307
東京都特別区部	338,527	271,344	4,420	342,947
横浜市	73,214	61,170	309	73,523
川崎市	26,309	22,300	95	26,404
相模原市	14,332	12,325	11	14,343
新潟市	19,828	16,531	67	19,895
静岡市	21,607	18,503	66	21,673
浜松市	22,655	19,284	56	22,711
名古屋市	73,657	59,322	380	74,037
京都市	47,317	40,164	147	47,464
大阪市	118,448	96,452	770	119,218
堺市	18,546	15,483	26	18,572
神戸市	39,654	32,924	125	39,779
岡山市	20,308	16,859	60	20,368
広島市	32,029	26,615	99	32,128
北九州市	25,692	21,535	60	25,752
福岡市	43,029	34,624	185	43,214
熊本市	19,279	15,980	37	19,316

図表 22 は大都市の規模別常用雇用者数を見たものである。

図表 22 大都市別規模別常用雇用者数

(単位：人)

	【常用雇用者数】			
	中小企業		大規模企業	規模合計
		うち小規模企業		
札幌市	413,756	65,070	185,953	599,709
仙台市	244,748	37,336	63,989	308,737
さいたま市	226,253	36,084	111,165	337,418
千葉市	166,518	24,410	210,740	377,258
東京都特別区部	4,763,907	497,671	7,498,022	12,261,929
横浜市	689,501	113,214	454,834	1,144,335
川崎市	207,019	41,038	109,817	316,836
相模原市	103,188	22,725	14,476	117,664
新潟市	186,158	31,411	59,903	246,061
静岡市	171,810	33,722	50,325	222,135
浜松市	182,737	34,878	88,527	271,264
名古屋市	832,219	113,246	417,841	1,250,060
京都市	356,339	67,290	204,990	561,329
大阪市	1,394,361	178,863	990,984	2,385,345
堺市	141,709	31,667	25,946	167,655
神戸市	326,199	54,068	118,439	444,638
岡山市	178,882	30,201	69,436	248,318
広島市	290,442	47,627	130,958	421,400
北九州市	217,877	39,866	77,923	295,800
福岡市	455,932	62,581	257,948	713,880
熊本市	148,465	28,415	23,634	172,099

図表 23 では大都市別の規模別従業者総数を見ている。

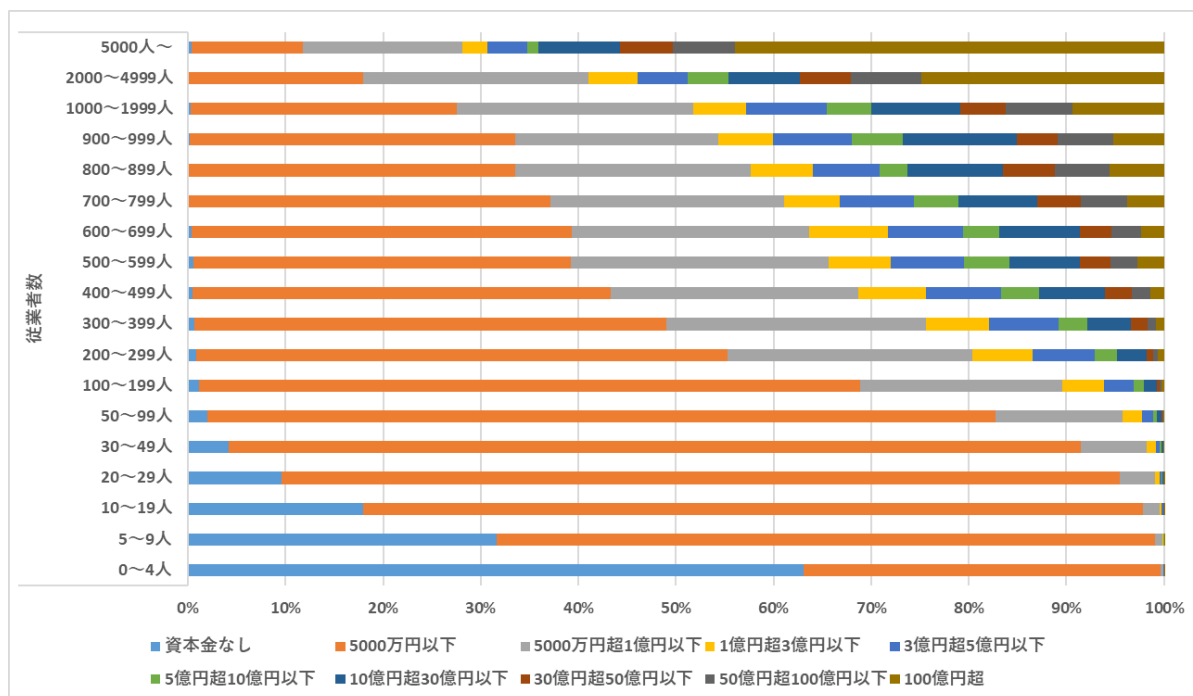
図表 23 大都市別規模別従業者総数

(単位：人)

	【従業者総数】			
	中小企業		大規模企業	規模合計
		うち小規模企業		
札幌市	490,122	119,726	189,281	679,403
仙台市	291,218	69,512	64,922	356,140
さいたま市	266,290	66,996	111,433	377,723
千葉市	195,773	44,387	210,088	405,861
東京都特別区部	5,405,320	924,280	7,572,958	12,978,278
横浜市	820,693	210,385	456,256	1,276,949
川崎市	252,547	77,461	110,606	363,153
相模原市	127,406	42,314	14,488	141,894
新潟市	220,196	56,993	62,553	282,749
静岡市	210,211	62,440	51,064	261,275
浜松市	221,383	65,234	81,829	303,212
名古屋市	965,355	209,502	423,923	1,389,278
京都市	445,128	133,730	210,213	655,341
大阪市	1,612,521	332,757	1,000,072	2,612,593
堺市	176,213	57,767	35,324	211,537
神戸市	395,163	105,908	119,893	515,056
岡山市	215,659	57,646	69,790	285,449
広島市	347,941	90,366	133,221	481,162
北九州市	262,996	73,658	78,297	341,293
福岡市	535,836	117,750	259,890	795,726
熊本市	183,750	54,835	23,932	207,682

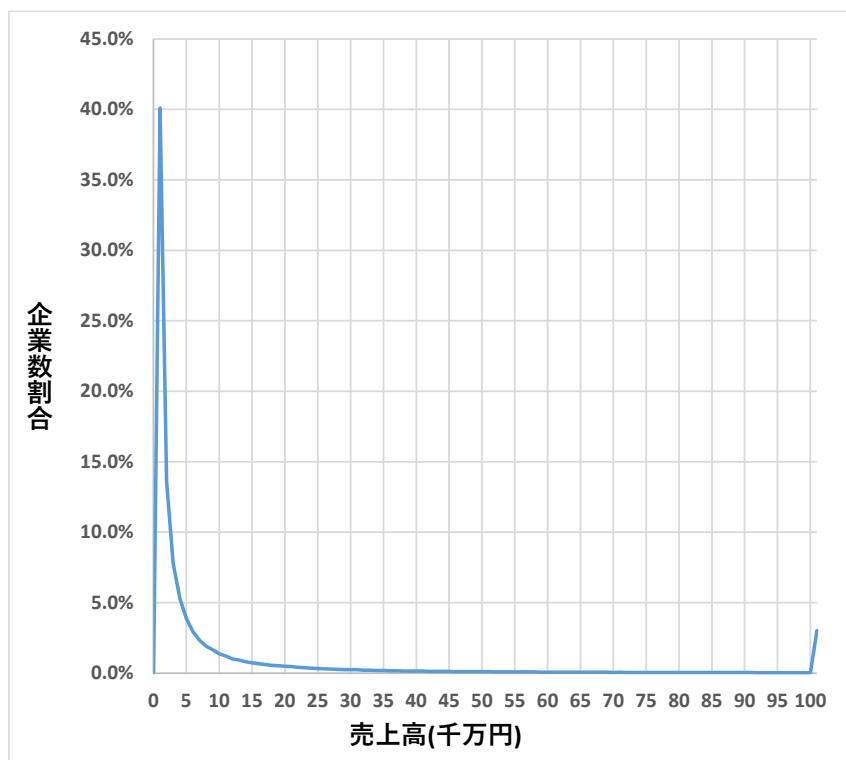
図表 24 は資本金別、従業者規模別に企業数を見たものである。

図表 24 資本金別、従業者規模別企業数



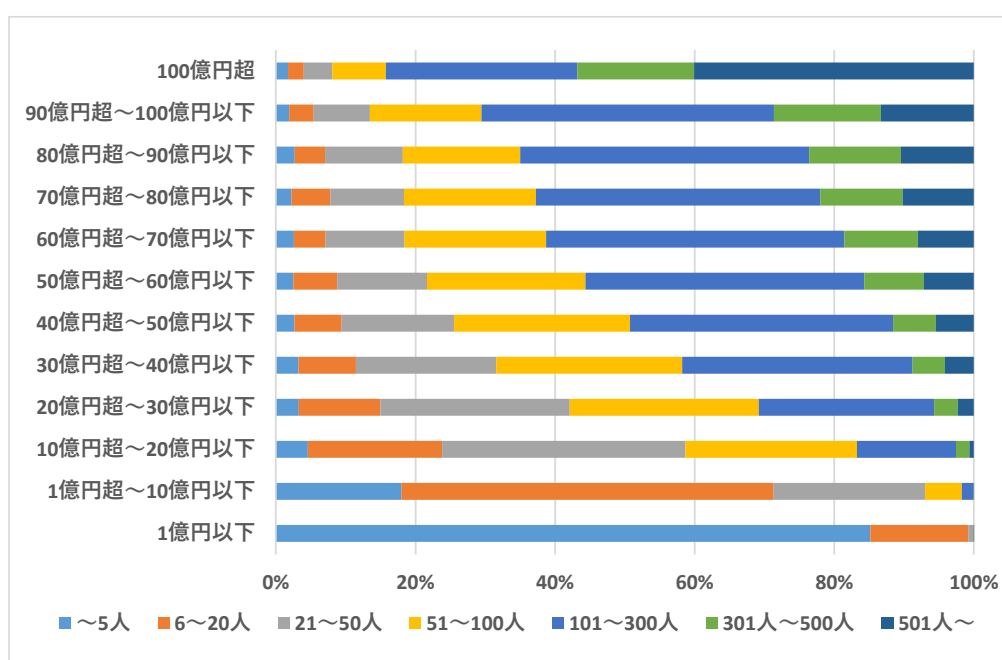
図表 25 は売上高規模別に企業数割合を見たものである。

図表 25 企業の売上高の分布



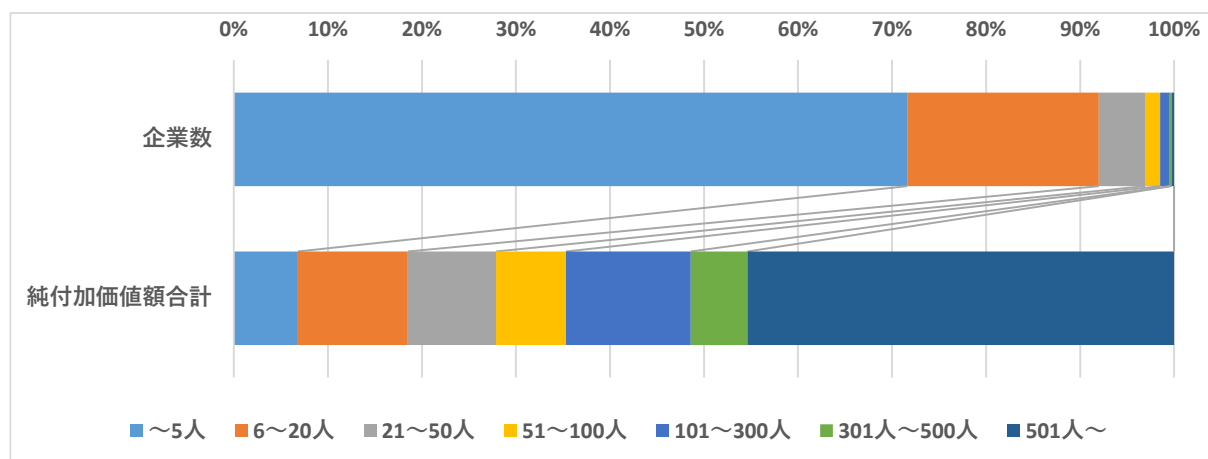
図表 26 は従業者規模別売上高規模別の企業数割合を見ている。

図表 26 従業者規模別売上高規模別企業数割合



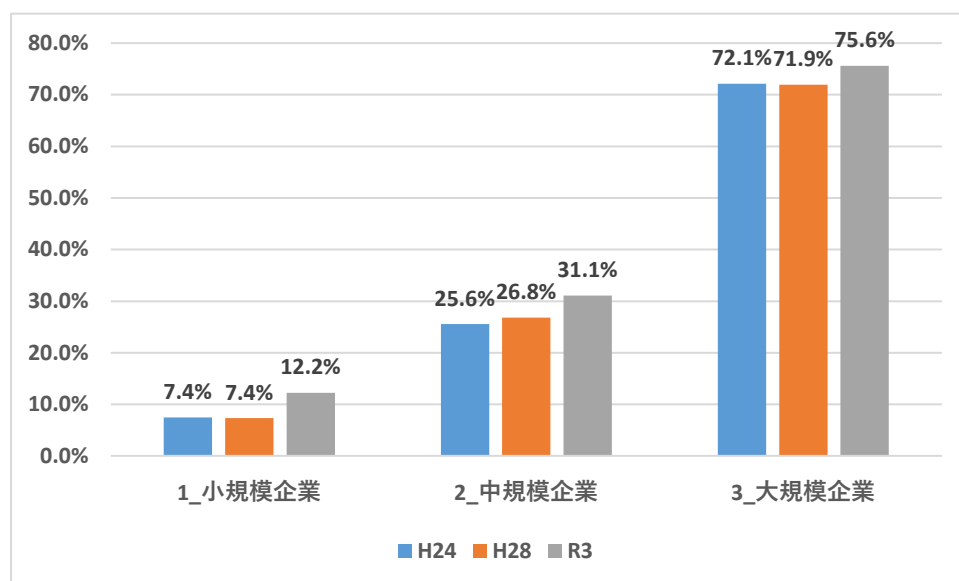
図表 27 は従業者規模別に企業数と付加価値額を見るものである。

図表 27 従業者規模別純付加価値額、企業数



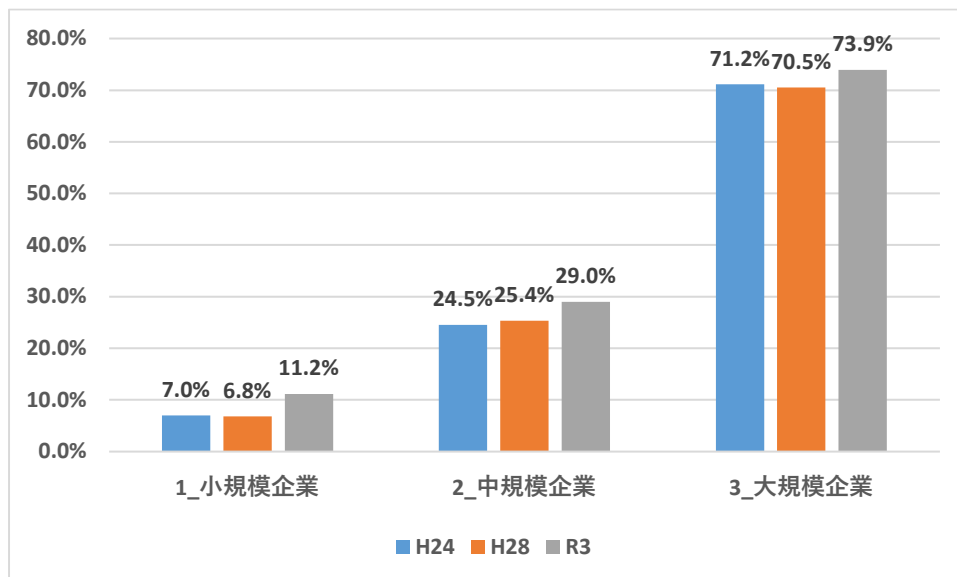
図表 28 では、規模別に設備投資をしていると回答した企業数割合の推移を見ている

図表 28 規模別設備投資をしていると回答した企業数割合



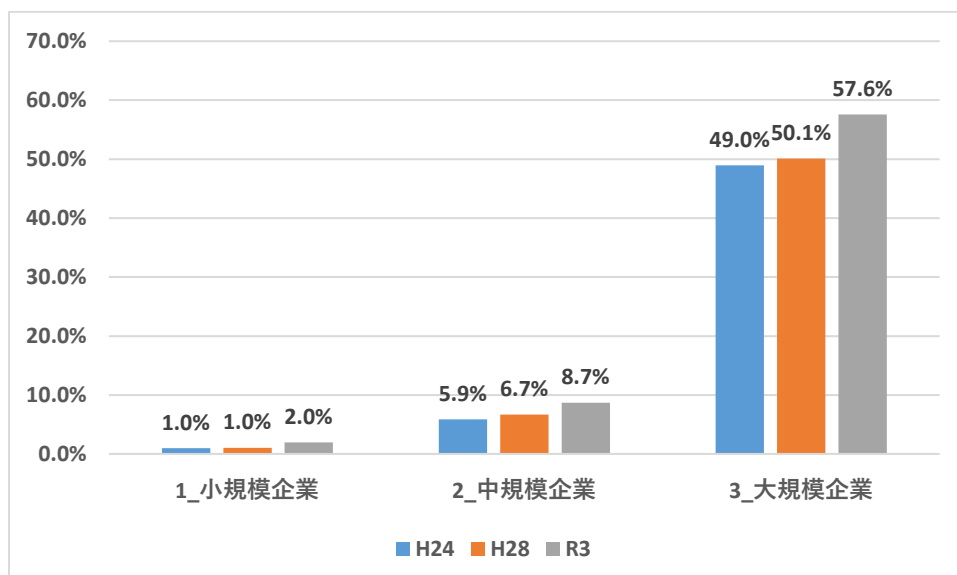
図表 29 では規模別に有形固定資産（土地を除く）を回答した企業数割合の推移を見ている

図表 29 規模別有形固定資産（土地を除く）を回答した企業数割合



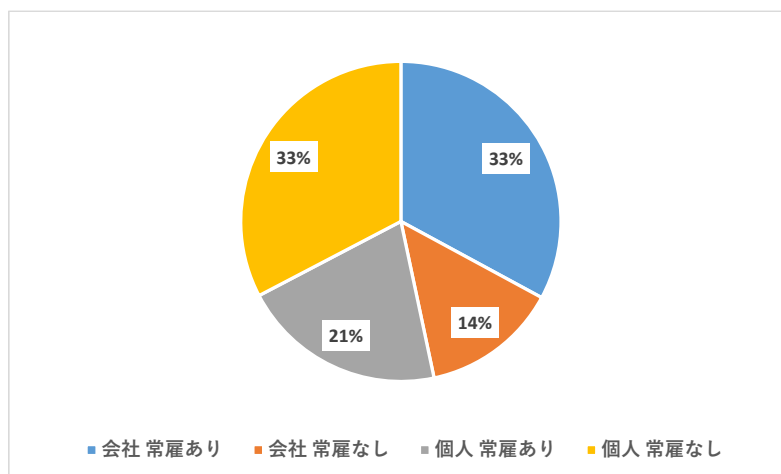
図表 30 は規模別に無形固定資産（ソフトウェアのみ）を回答した企業数割合の推移を見ている

図表 30 規模別無形固定資産（ソフトウェアのみ）を回答した企業数割合



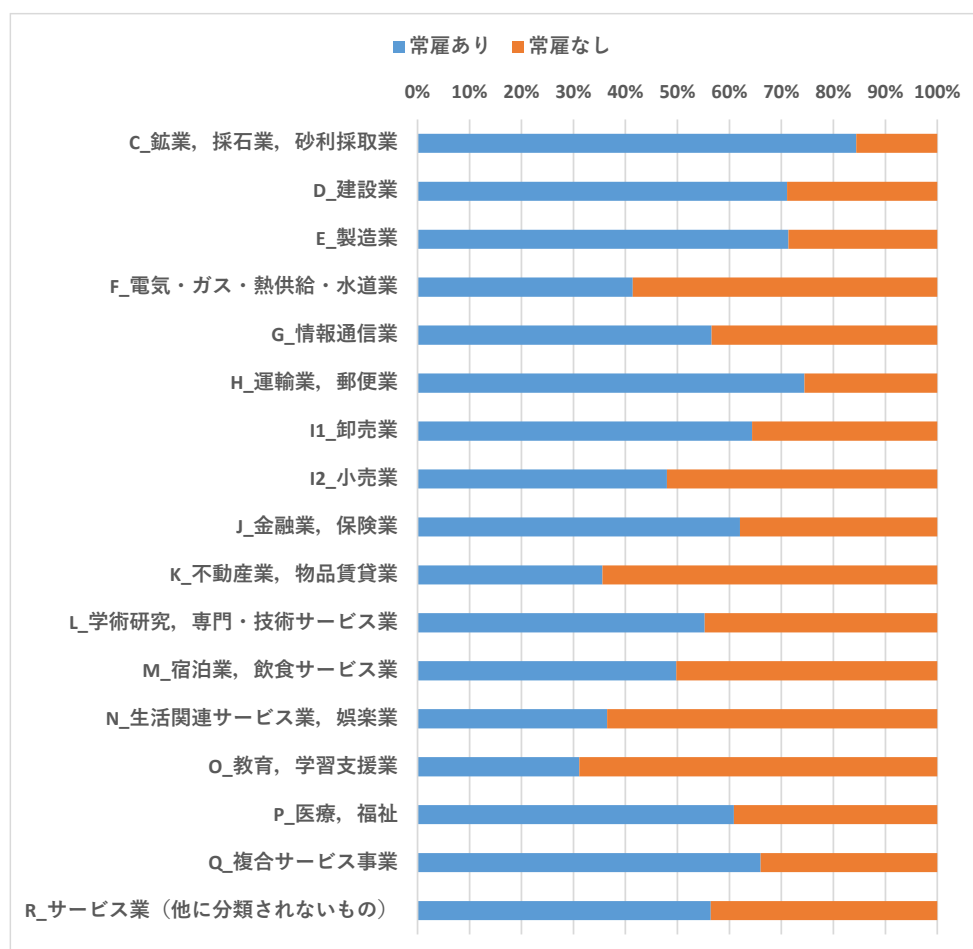
図表 31 では、小規模企業において、常用雇用者を有するかどうかを経営組織別に見ている。

図表 31 小規模企業の経営組織別常用雇用者の有無



図表 312 では、小規模企業において、常用雇用者を有するかどうかを産業別に見ている。

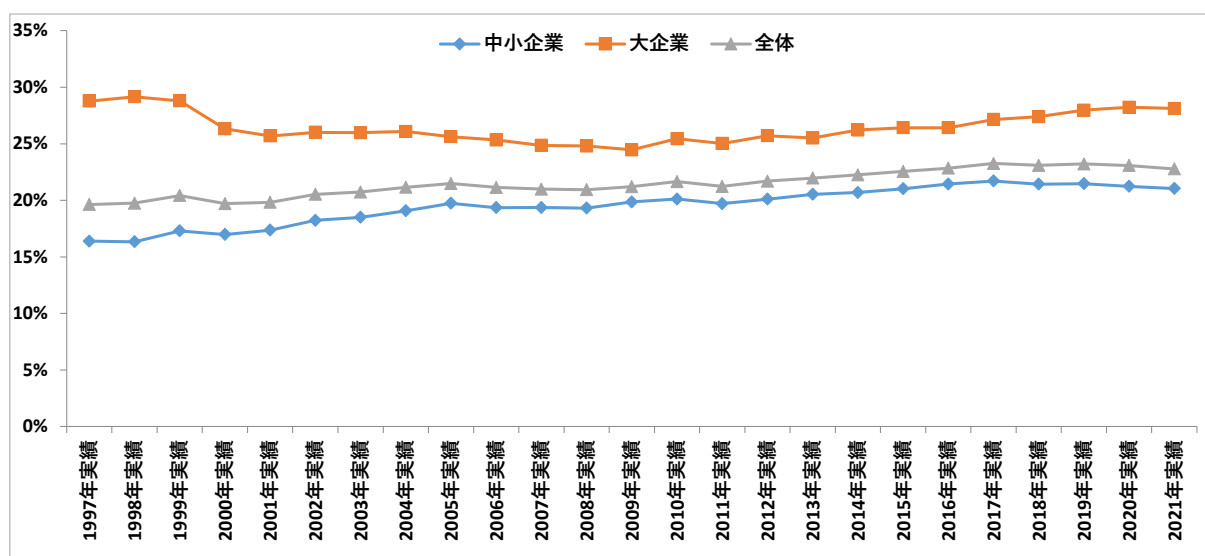
図表 32 小規模企業の産業別常用雇用者の有無



3-2 企業活動基本調査

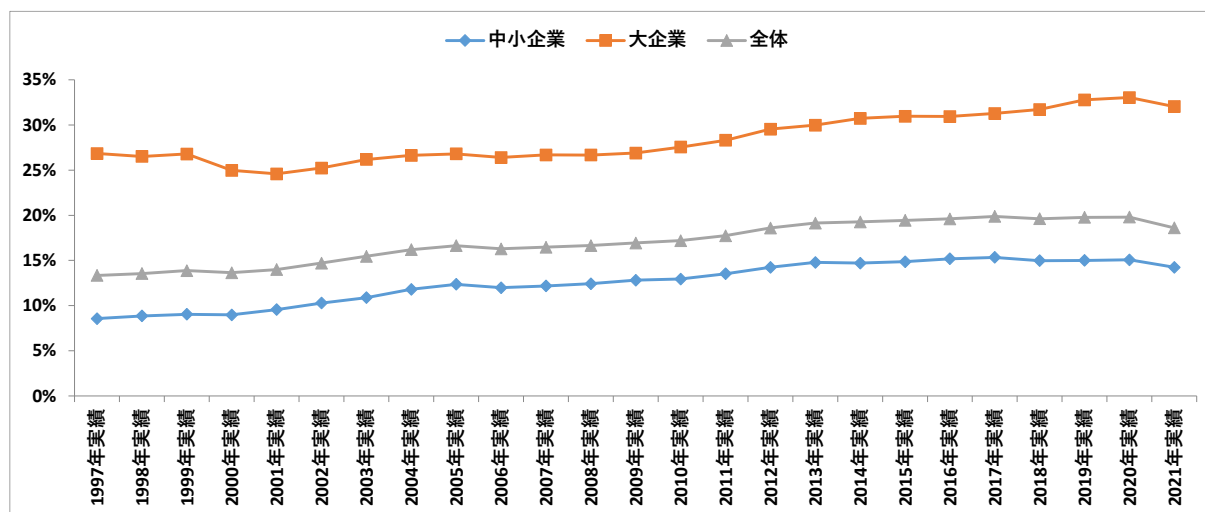
図表 33 では企業規模別に直接輸出企業割合の推移を見ている

図表 33 企業規模別に見た、直接輸出企業割合の推移



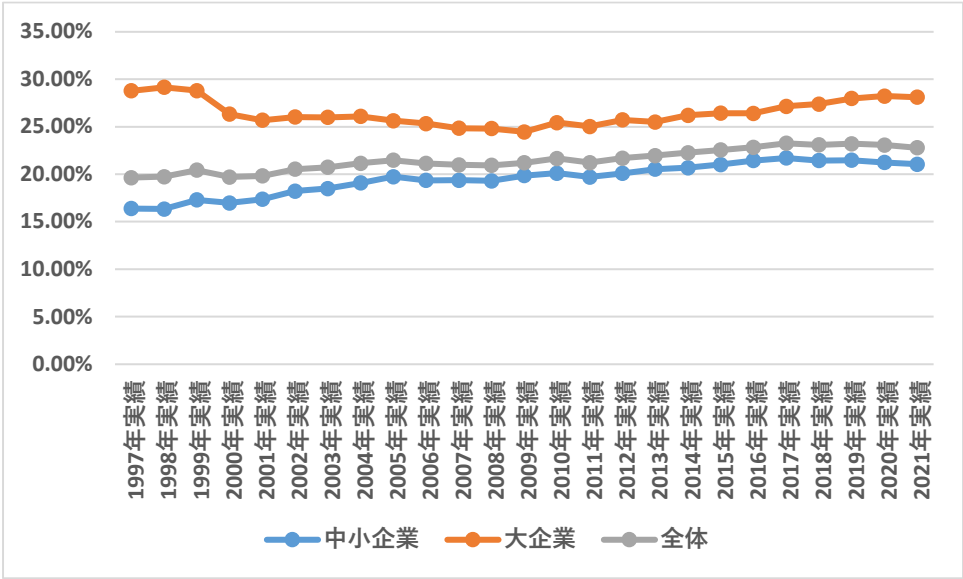
図表 34 では企業規模別で海外子会社を保有する企業割合の推移をみている。

図表 34 企業規模別に見た、海外子会社を保有する企業割合の推移



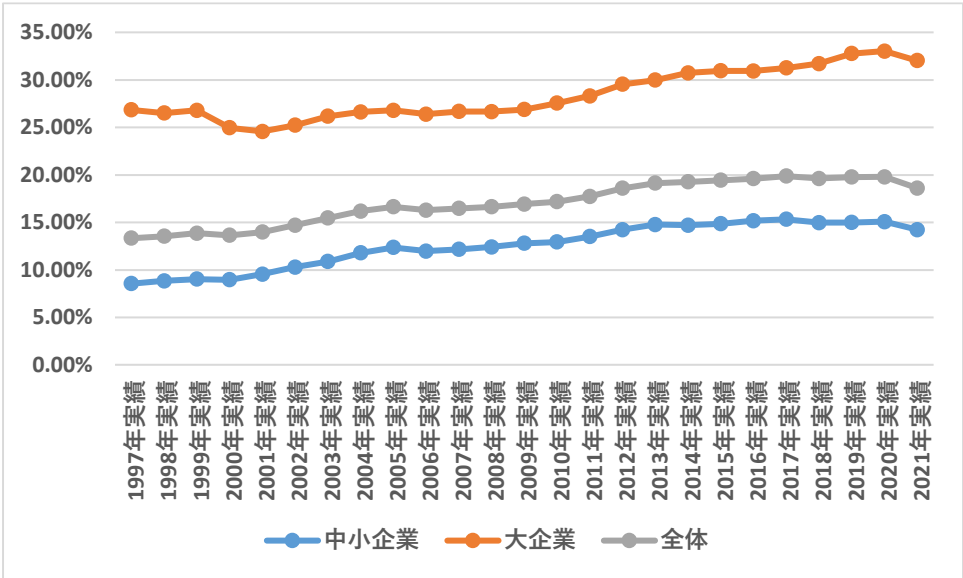
図表 35 では企業規模別に直接輸出比率の推移を見ている。

図表 35 企業規模別に見た、直接輸出比率の推移



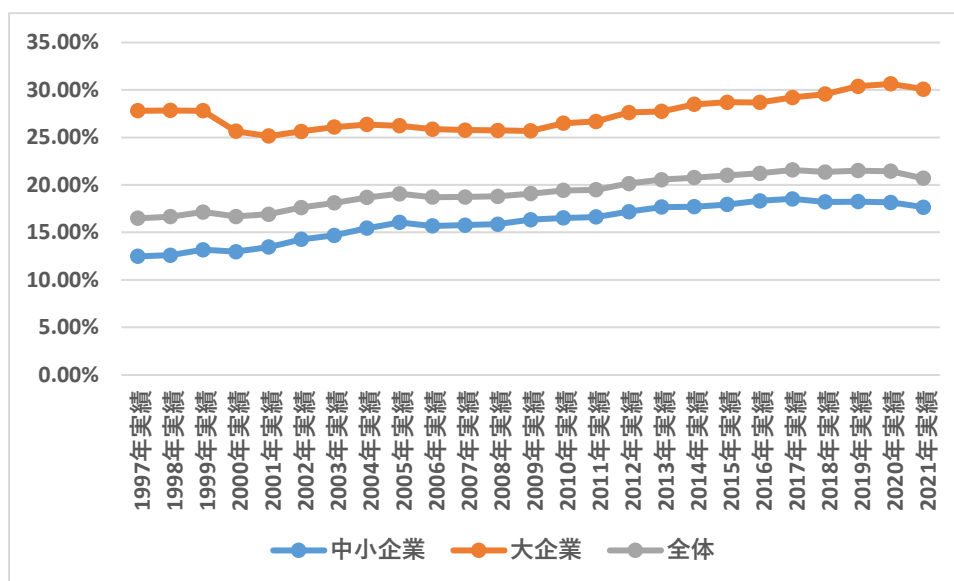
図表 36 では企業規模別に直接投資比率の推移を見ている。

図表 36 企業規模別に見た、直接投資比率の推移



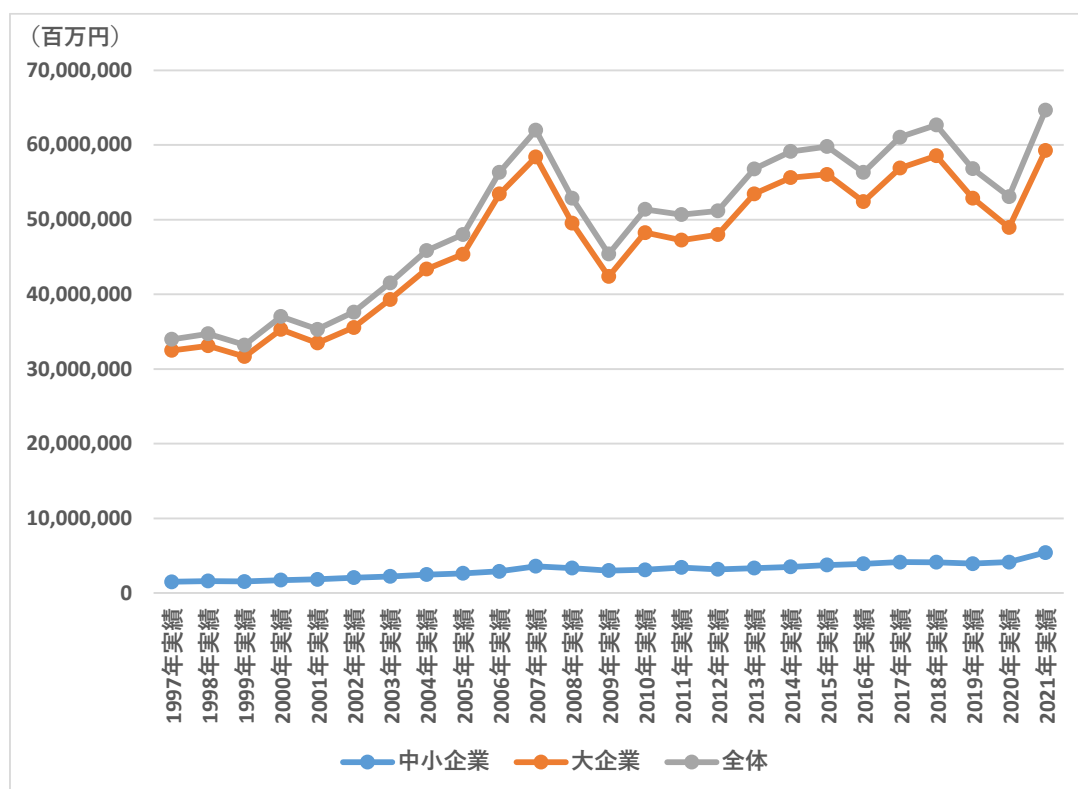
図表 37 では企業規模別に海外展開比率の推移を見ている。

図表 37 企業規模別に見た、海外展開比率の推移



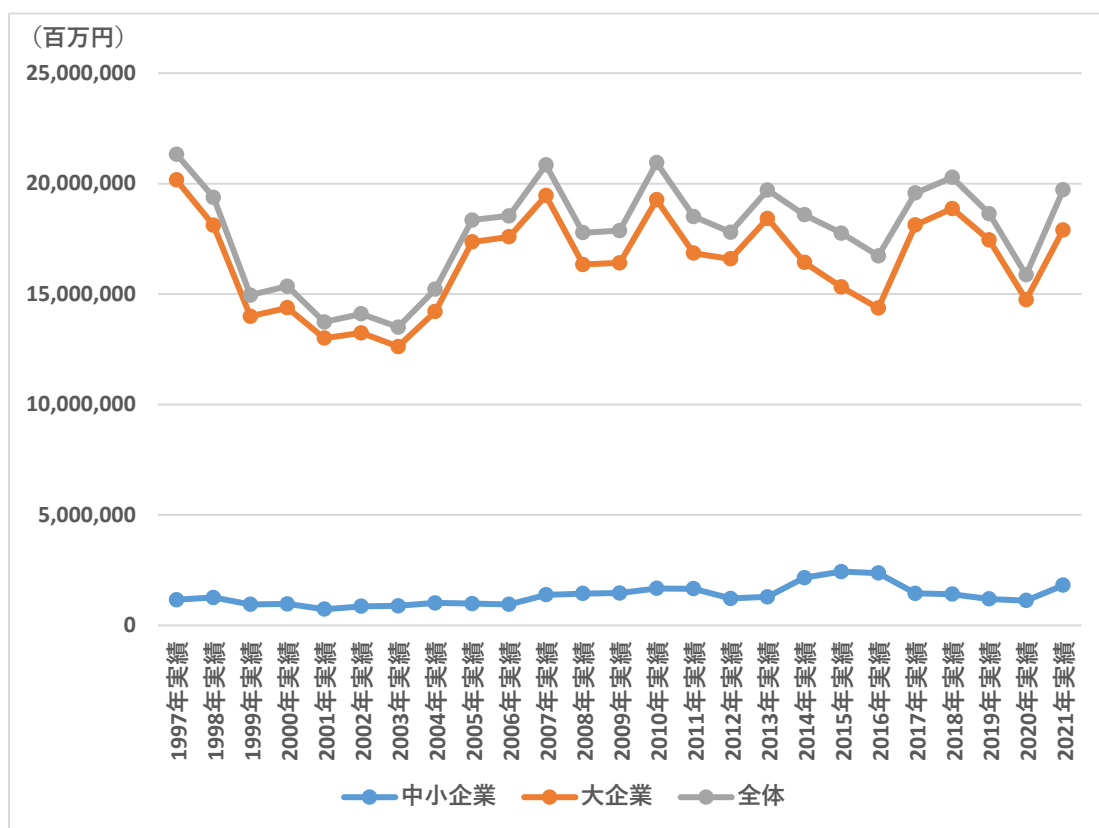
図表 38 では企業規模別に製造業の輸出額推移を見ている。

図表 38 企業規模別-製造業の輸出額の推移



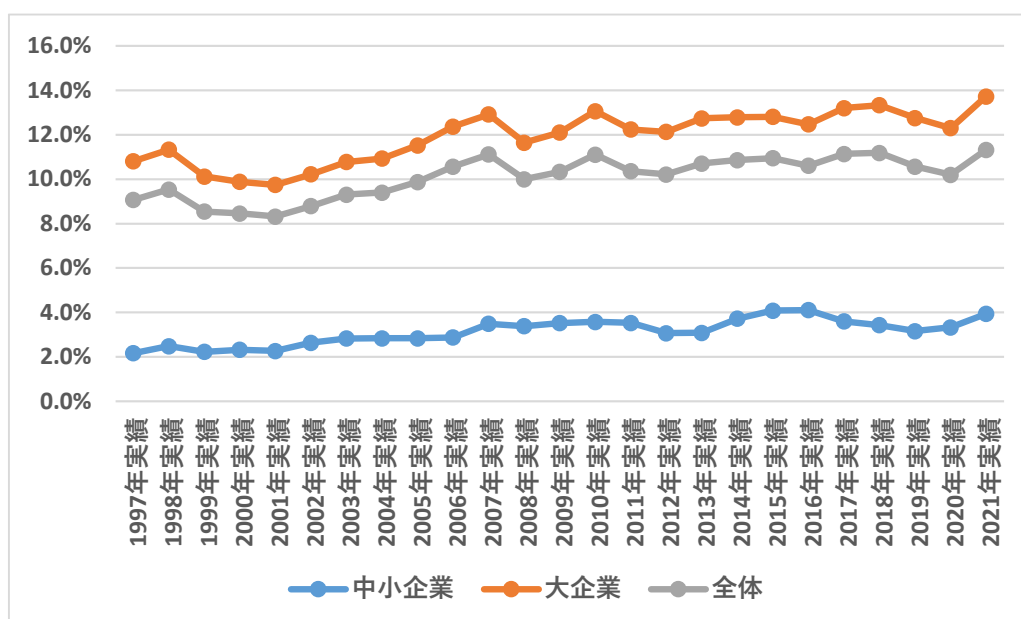
図表 39 企業規模別に非製造業の輸出額推移を見ている。

図表 39 企業規模別-非製造業の輸出額の推移



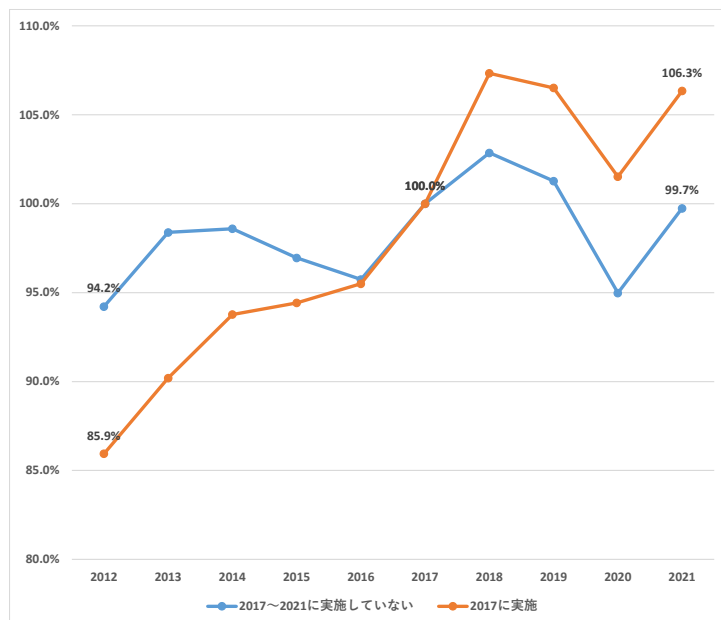
図表 40 では企業規模別に売上高輸出比率の推移を見ている。

図表 40 企業規模別売上高輸出比率の推移



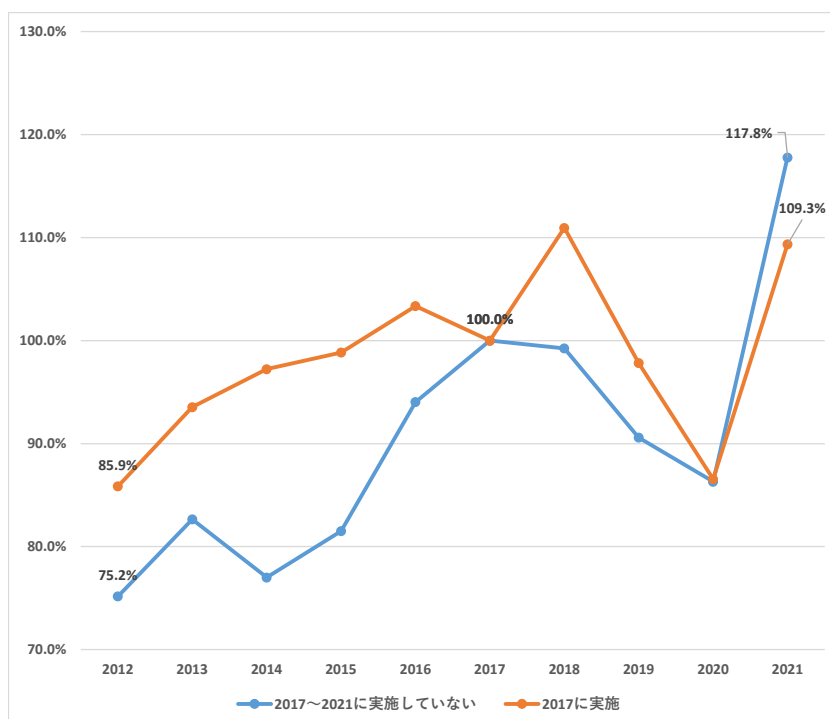
図表 41 では個票を 10 年分接続し 2017 年を 100 として売上高の推移を見ている。また、各企業について設備投資を「2017～2021 に実施していない」と「2017 に実施」の 2 つに分類した。

図表 41 設備投資企業群別売上高の推移



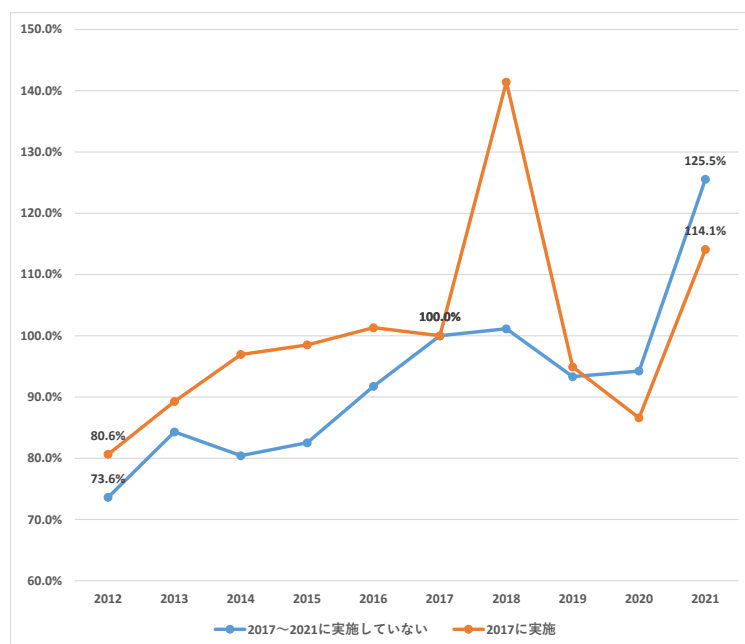
図表 42 では設備投資企業群別営業利益の推移を見ている。分類や基点は図表 41 と同様である。

図表 42 設備投資企業群別営業利益の推移



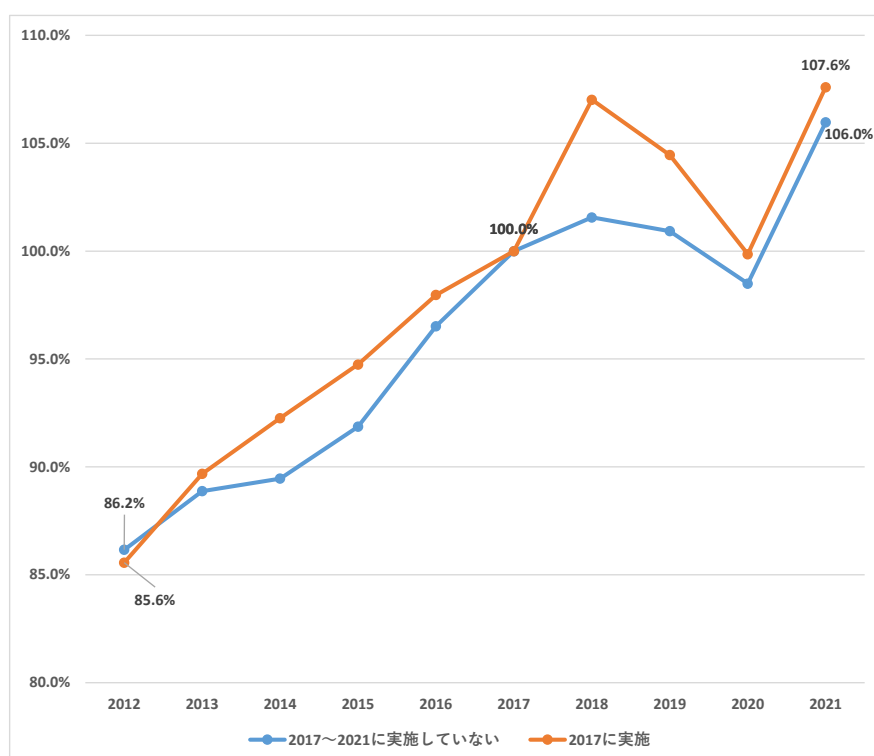
図表 43 では設備投資企業群別経常利益の推移を見ている。分類や基点は図表 41 と同様である。

図表 43 設備投資企業群別経常利益の推移



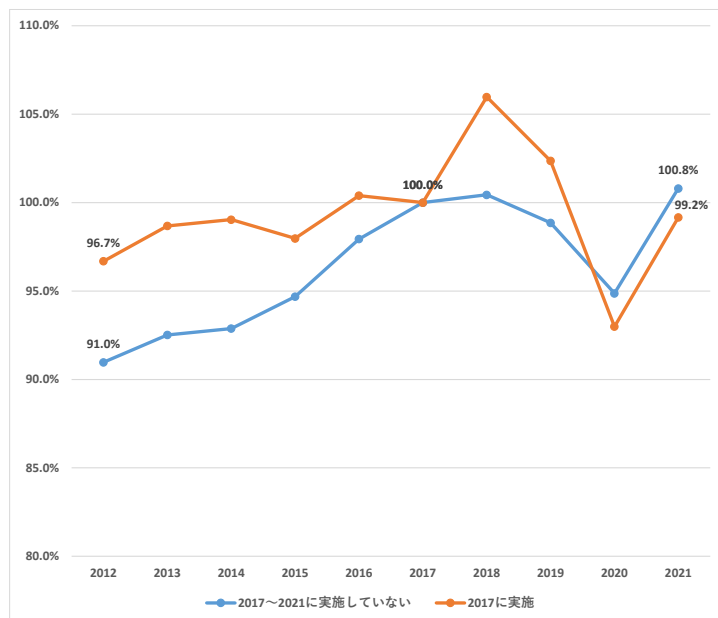
図表 44 では設備投資企業群別付加価値額の推移を見ている。分類や基点は図表 41 と同様である。

図表 44 設備投資企業群別付加価値額の推移



図表 45 では設備投資企業群別労働生産性の推移を見ている。分類や基点は図表 41 と同様である。

図表 45 設備投資企業群別労働生産性の推移



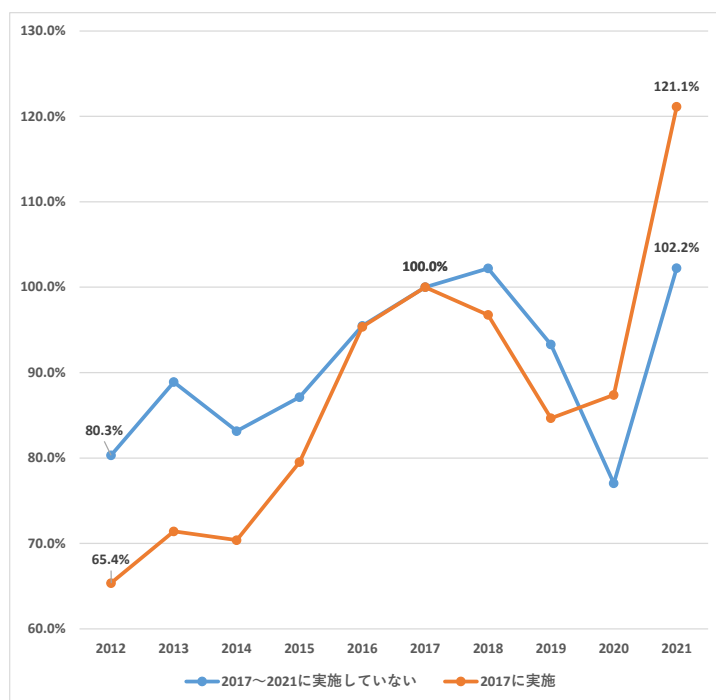
図表 46 では個票を 10 年分接続し 2017 年を 100 として売上高の推移を見ている。また、各企業について研究開発投資を「2017~2021 に実施していない」と「2017 に実施」の 2 つに分類した。

図表 46 研究開発投資企業群別売上高の推移



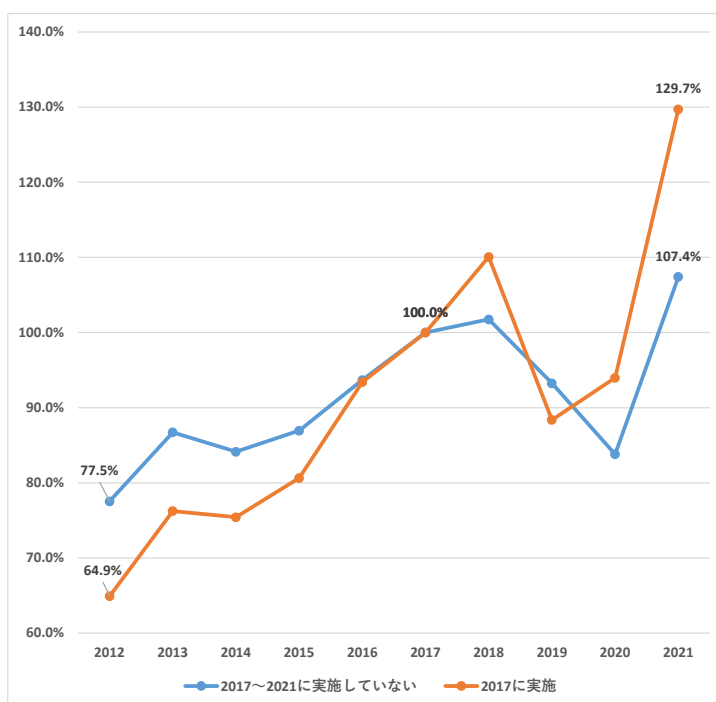
図表 47 では研究開発投資企業群別営業利益の推移を見ている。分類や基点は図表 46 と同様である。

図表 47 研究開発投資企業群別営業利益の推移



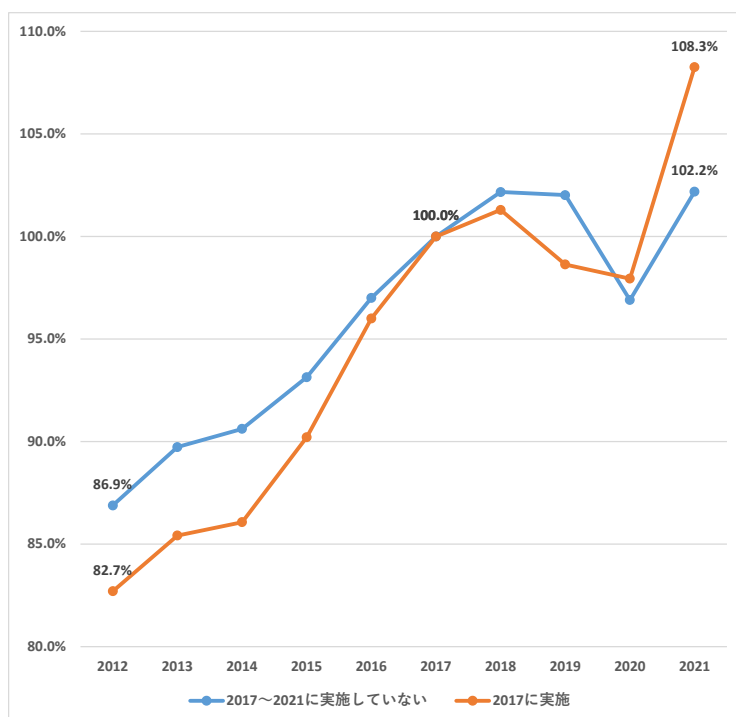
図表 48 では研究開発投資企業群別経常利益の推移を見ている。分類や基点は図表 46 と同様である。

図表 48 研究開発投資企業群別経常利益の推移



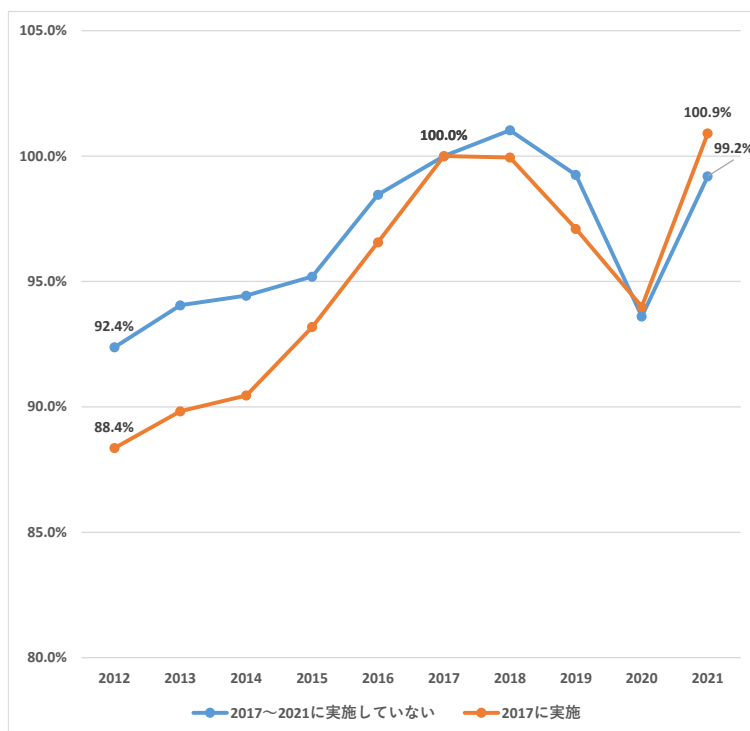
図表 49 では研究開発投資企業群別付加価値額の推移を見ている。分類や基点は図表 46 と同様である。

図表 49 研究開発投資企業群別付加価値額の推移



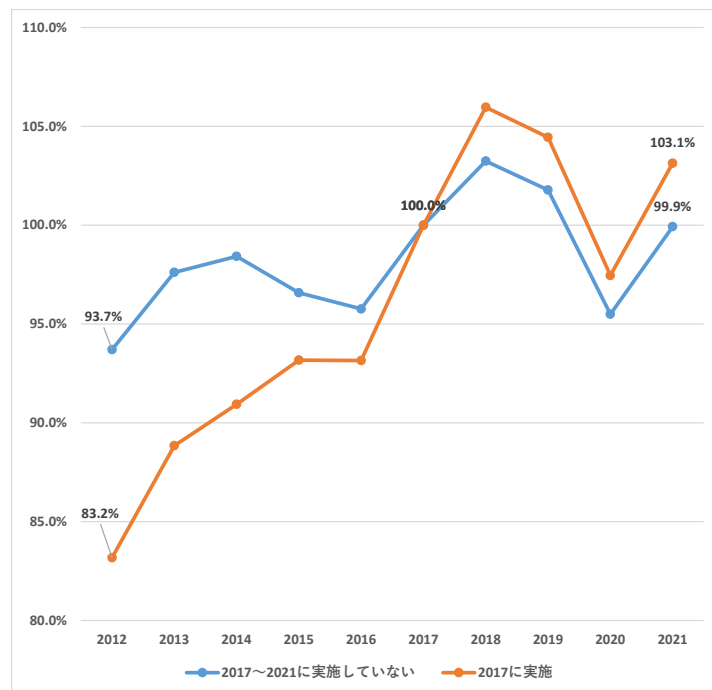
図表 50 では研究開発投資企業群別労働生産性の推移を見ている。分類や基点は図表 46 と同様である。

図表 50 研究開発投資企業群別労働生産性の推移



図表 51 では個票を 10 年分接続し 2017 年を 100 として売上高の推移を見ている。また、各企業について M&A を「2017～2021 に実施していない」と「2017 に実施」の 2 つに分類した。

図表 51 M&A 企業群別売上高の推移



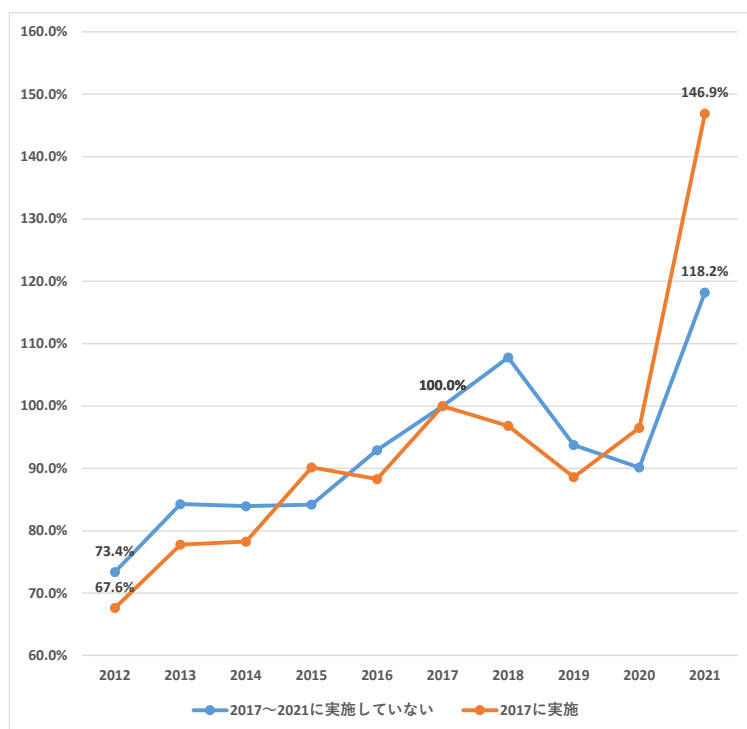
図表 52 では M&A 企業群別営業利益の推移を見ている。分類や基点は図表 51 と同様である。

図表 52 M&A 企業群別営業利益の推移



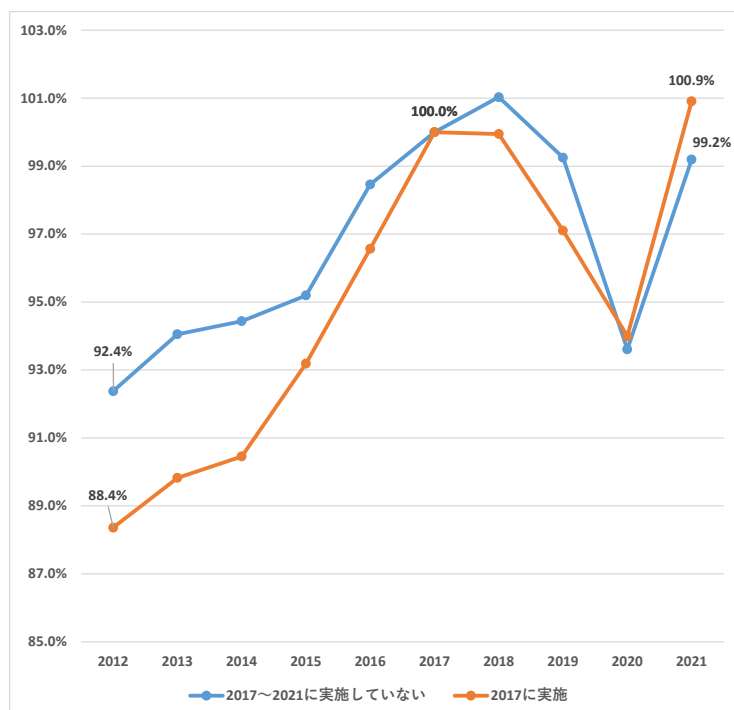
図表 53 では M&A 企業群別経常利益の推移を見ている。分類や基点は図表 51 と同様である。

図表 53 M&A 企業群別経常利益の推移



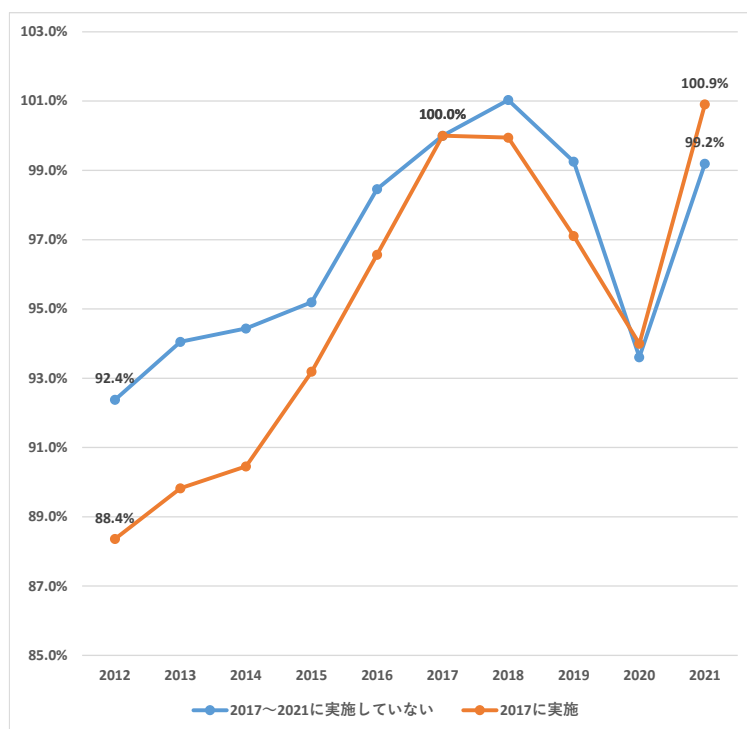
図表 54 では M&A 企業群別付加価値額の推移を見ている。分類や基点は図表 51 と同様である。

図表 54 M&A 企業群別付加価値額の推移



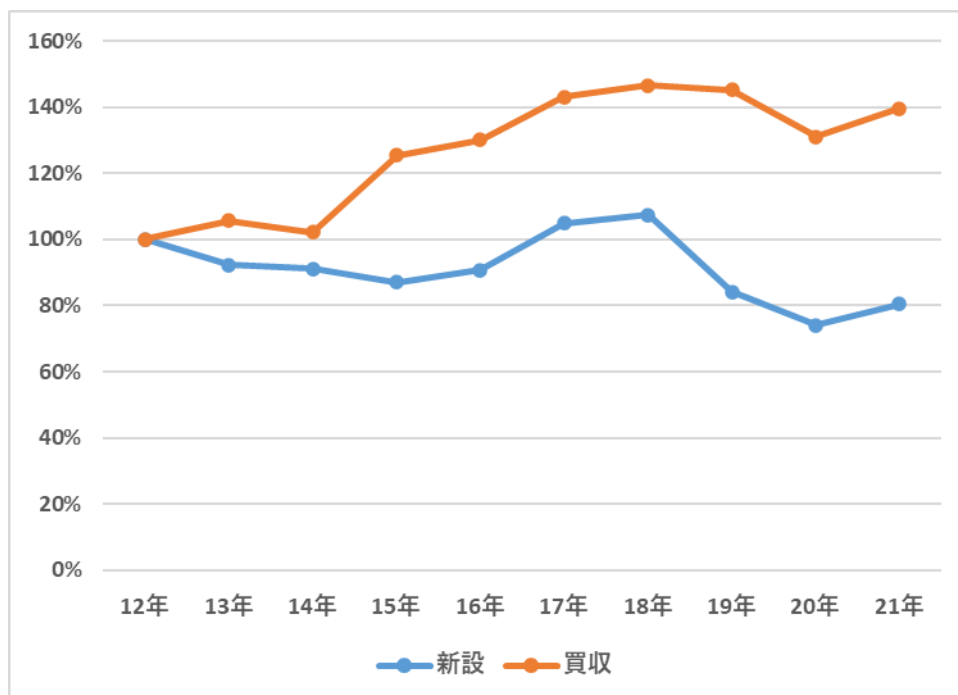
図表 55 では M&A 企業群別労働生産性の推移を見ている。分類や基点は図表 51 と同様である。

図表 55 M&A 企業群別労働生産性の推移



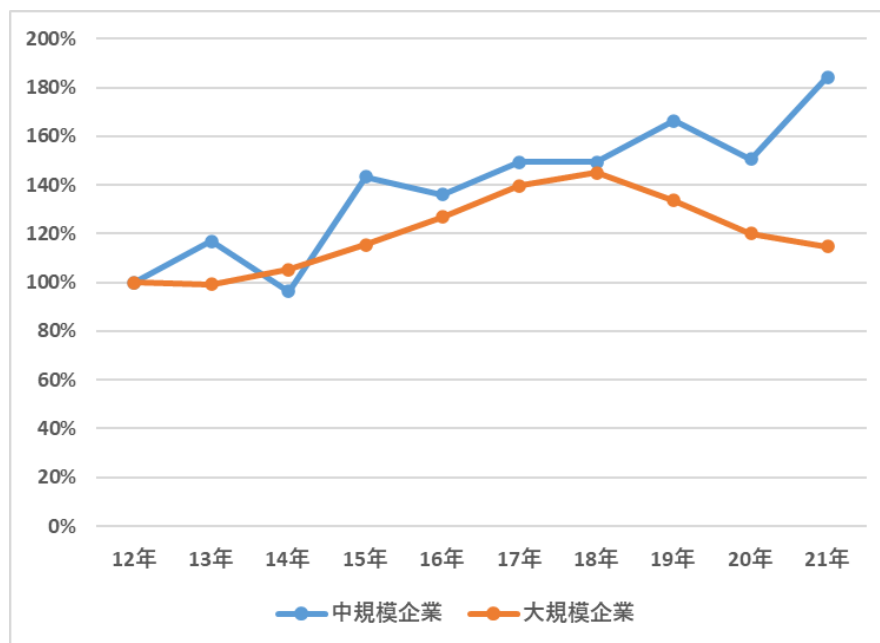
図表 56 では 2012 年を 100 として、子会社・関連会社について、買収・新設別に子会社・関連会社が増加した企業数の推移を見ている。

図表 56 買収・新設別子会社・関連会社が増加した企業数の推移



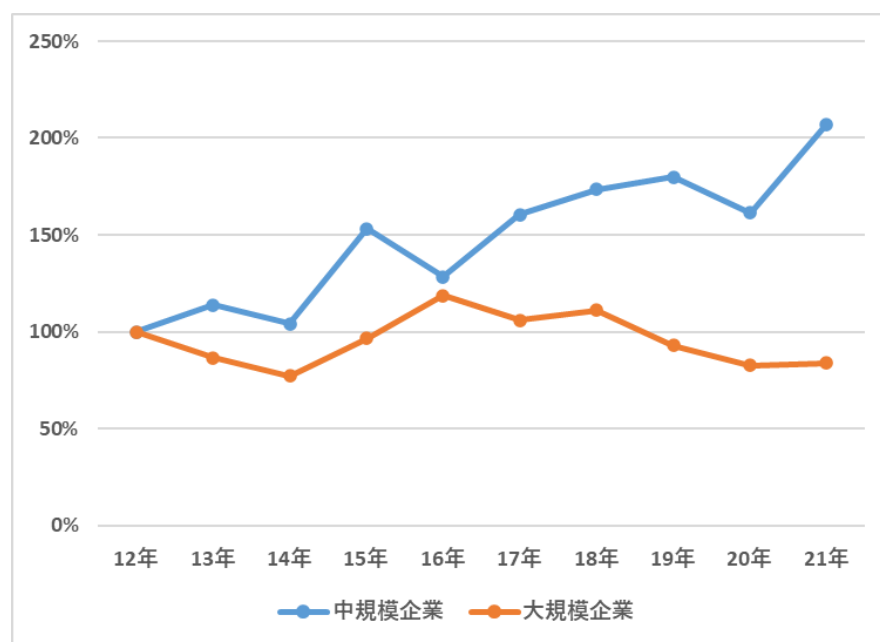
図表 567 では 2012 年を 100 として、企業規模別に見た、買収により子会社・関連会社が増加した企業数の推移を見ている。

図表 57 企業規模別に見た、買収により子会社・関連会社が増加した企業数の推移



図表 58 では 2012 年を 100 として、買収主体の企業規模別に見た、買収された子会社・関連会社数の推移を見ている。

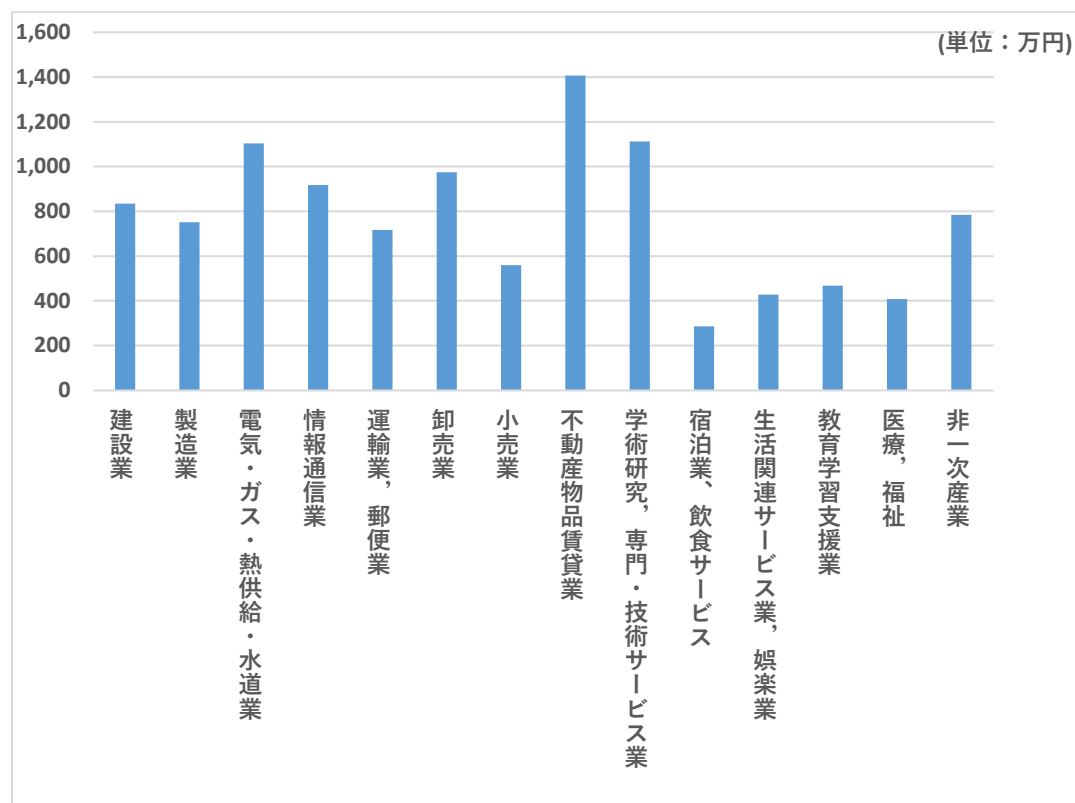
図表 58 買収主体の企業規模別に見た、買収された子会社・関連会社数の推移



3-3 法人企業統計調査

図表 59 では、産業別に労働生産性の中央値を見ている。

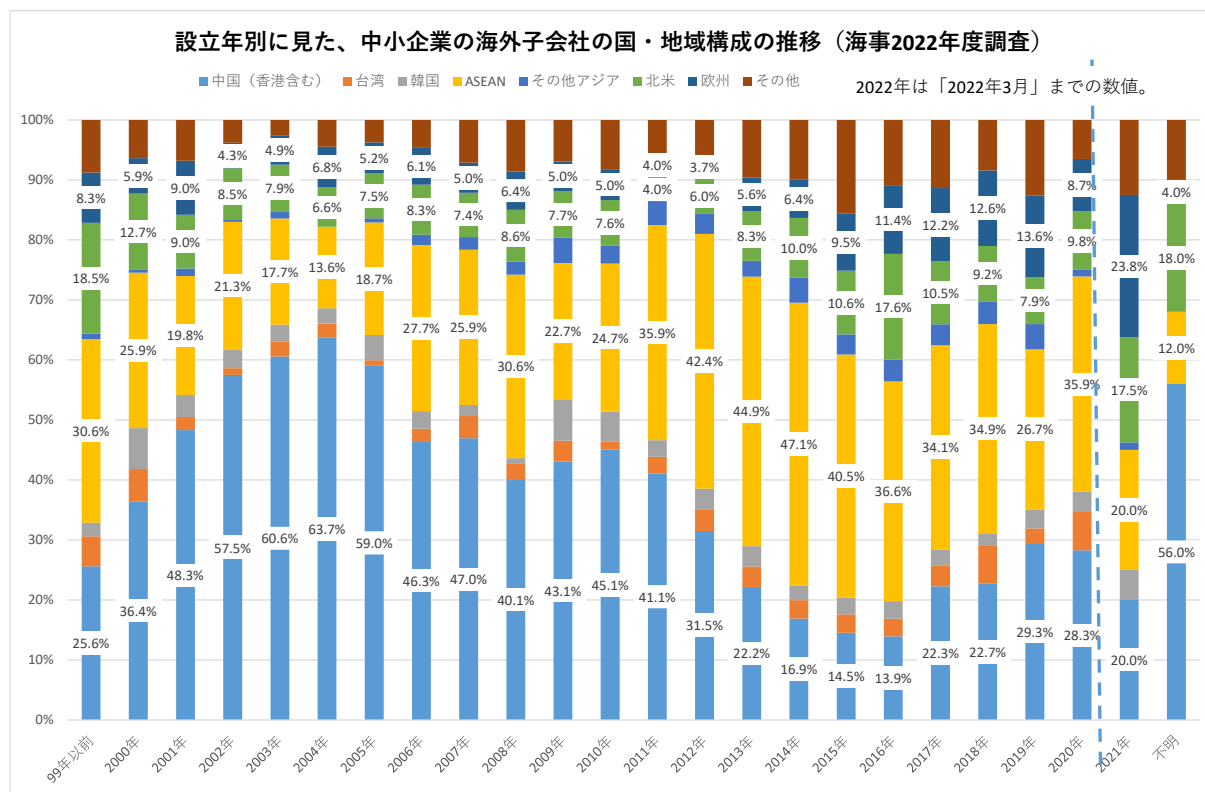
図表 59 産業別労働生産性の中央値



3-4 海外事業活動基本調査

図表 60 では、設立年別に見た、中小企業の海外子会社の国・地域構成の推移を見ている。

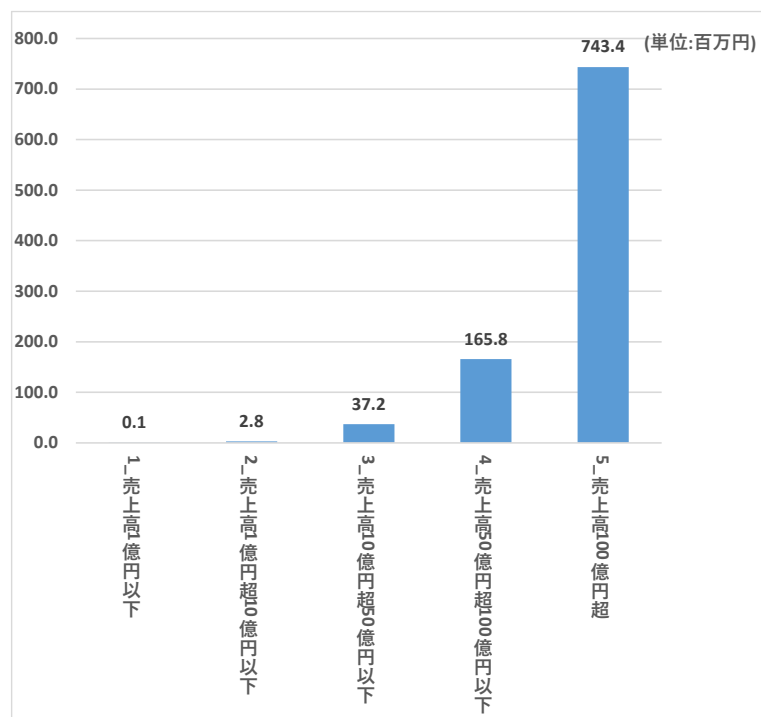
図表 60 設立年別に見た、中小企業の海外子会社の国・地域構成の推移



3-5 中小企業実態基本調査

図表 61 では、売上高規模別に 1 社あたりの直接輸出額を見ている。

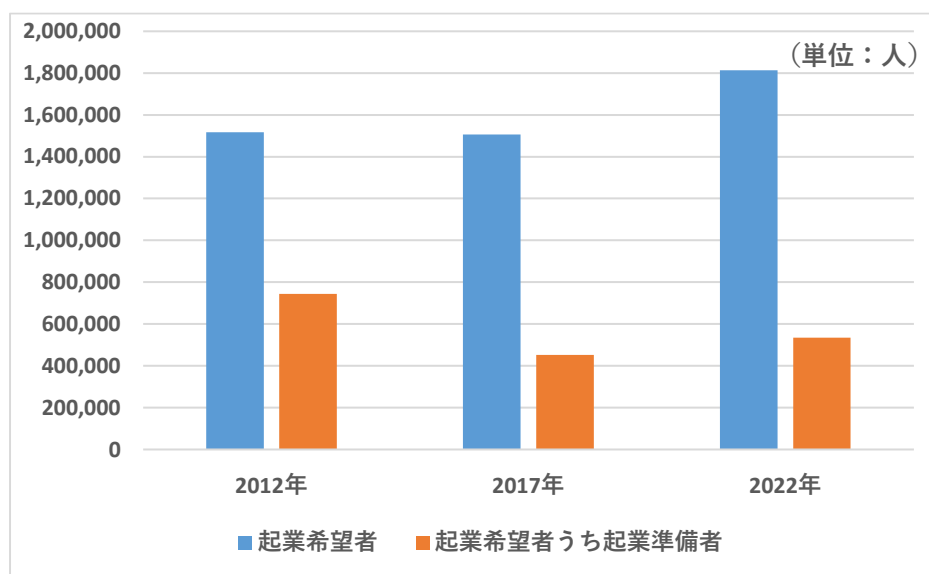
図表 61 売上高規模別に見た 1 社あたりの直接輸出額



3-6 就業構造基本調査

図表 62 では、起業希望者³及び起業準備者⁴の推移を見ている。

図表 62 起業希望者、及び起業準備者の推移



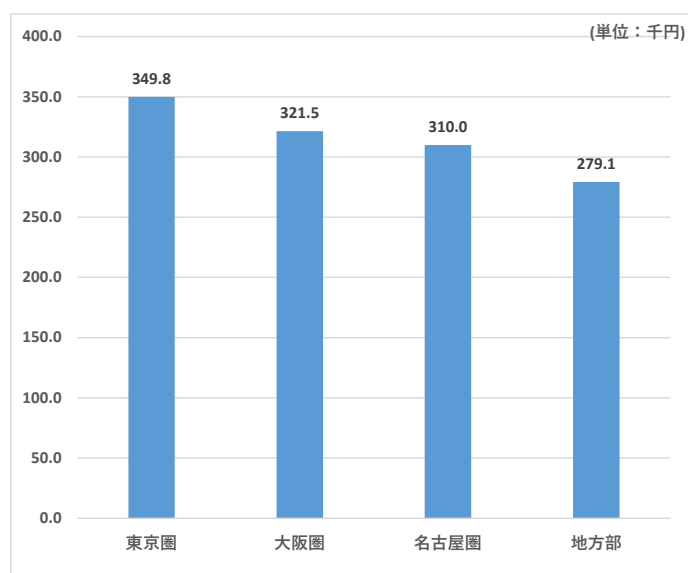
³ ここでいう「起業希望者」とは、有業者のうち「この仕事のほかに別の仕事もしたい」又は「ほかの仕事に変わりたい」と回答し、かつ「自分で事業を起こしたい」と回答した者、又は無業者のうち「自分で事業を起こしたい」と回答した者を指す。

⁴ ここでいう「起業準備者」とは、起業希望者のうち「開業の準備をしている」と回答した者を指す。

3-7 賃金構造基本統計調査

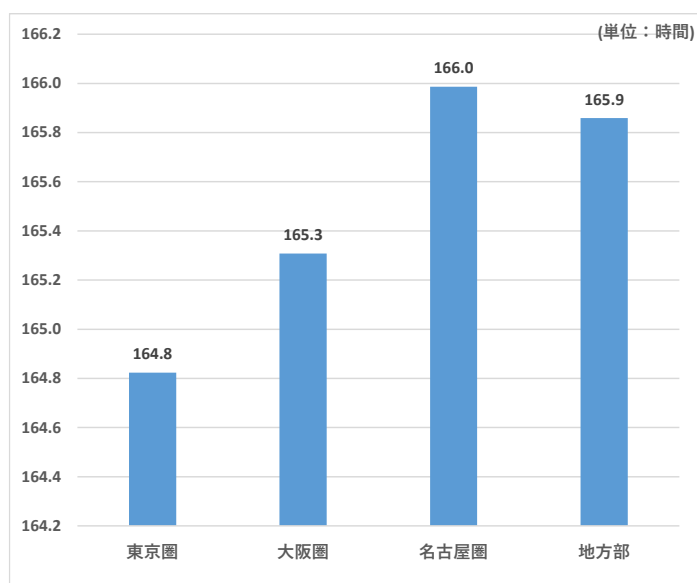
図表 63 では、都市圏別に所定内給与額を見ている。都市圏の定義は中小企業白書（2023）⁵に倣い、東京圏（茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、大阪圏（京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）、名古屋圏（愛知県、三重県）、地方部（その他）とした。

図表 63 都市圏別所定内給与額



図表 64 では都市圏別に所定内実労働時間を見ている。

図表 64 都市圏別所定内実労働時間

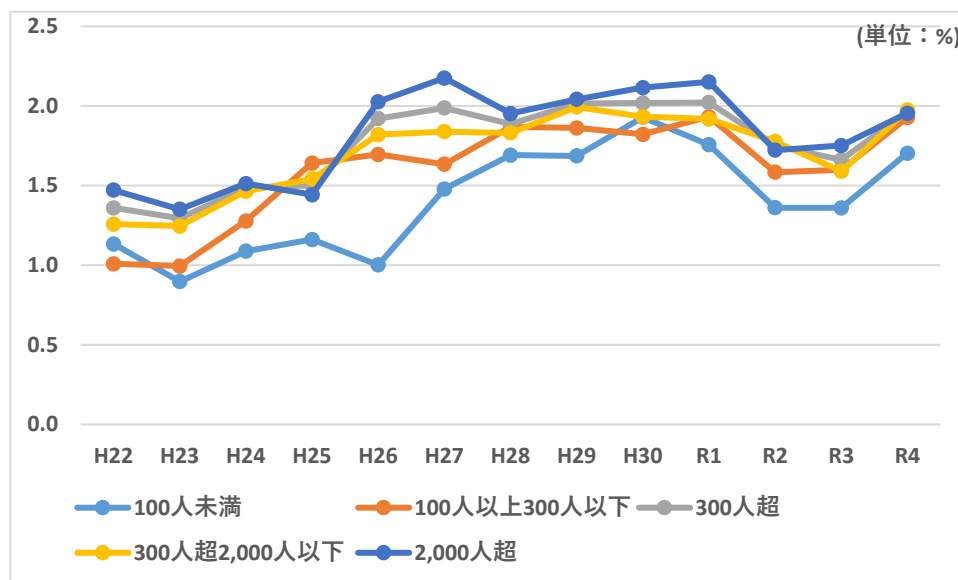


⁵ 2023 年版中小企業白書 第 1 部第 5 章第 1 節第 1 項

3-8 賃金引上げ等の実態に関する調査

図表 65 では、常用雇用者規模別に、賃金の平均改定率の推移を見ている。

図表 65 常用雇用者規模別賃金の平均改定率の推移



4 まとめ

【令和 3 年経済センサスの企業数】

令和 3 年度経済センサスの個票提供により、企業規模を区分した概況を見ることができるようになった。全体では平成 28 年の 3,589,333 者から令和 3 年の 3,375,255 者と 21 万者ほど減少している⁶。企業規模別にみると大規模企業は 10,364 者、中規模企業は 511,535 者、小規模企業は 2,853,356 者となっている。（図表 1）。

平成 28 年と令和 3 年の個票同士を接続したパネル化集計を見ると、企業規模が小さいほど廃業企業の割合が高い。（図表 10）。また、存続企業約 265 万者のうち、規模拡大した企業が約 4.0 万者、規模縮小が約 6.7 万者となっている（図表 13）。

【令和 3 年経済センサスの従業者総数】

従業者総数でみると全体で平成 28 年の公表値 46,789,995 人から令和 3 年の 47,483,272 人と約 69 万人増加している。企業規模別にみると大規模企業は 14,384,830 人、中規模企業は 23,372,520 人、小規模企業は 9,725,922 人となっている（図表 2）。

【令和 3 年経済センサスの常用雇用者】

常用雇用者をみると、全体で平成 28 年の 40,232,940 人から令和 3 年の 41,390,951 人と約 115.8 万人増加している。企業規模別にみると大規模企業は約 13.7 万人の減少、中規模企業は約 167.2 万人の増加、小規模企業は約 37.7 万人の減少となっている（図表 3）。なお、小規模企業について常用雇用者の有無を見ると、会社で 14%、個人で 33%もの企業に常用雇用者が存在しない（図表 31）。産業別で見ると、特に教育、学習支援業、不動産業、物品賃貸業、生活関連サービス業、娯楽業の 3 つの産業にて常用雇用者が存在しない割合が高い。

【令和 3 年経済センサスの売上高】

売上高を見ると平成 28 年の公表値 1,427 兆 6,218 億円から令和 3 年の 1,437 兆 6,373 億円と約 10 兆円増加している。企業規模別にみると大規模企業は 7,57 兆 5,075 億円、中規模企業は 5,29 兆 1,180 億円、小規模企業は 1,51 兆 118 億円となっている（図表 4）。

【令和 3 年経済センサスの付加価値額】

付加価値額を見ると平成 28 年の公表値 255 兆 6,442 億円から令和 3 年の約 250 兆 2,402 億円と約 5.4 兆円減少している。企業規模別にみると大規模企業は 1,10 兆 1,216 億円、中規模企業は 1,03 兆 7,542 億円、小規模企業は 36 兆 3,643 億円となっている（図表 5）。従業者規模別で付加価値額を見ると、従業者規模が小さい企業では企業数は多いものの、付加価値額は低い。他方、従業者規模が大きい企業については、企業数は少ないものの、付加価値額は高い（図表 27）。

【経済センサスの地域別集計】

⁶ 平成 28 年の数値は 2020 年版中小企業白書付属統計表を参照

<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2020/chusho/index.html>

都道府県別に、平成 28 年の公表値と令和 3 年において、各種指標の変化が大きい県について確認を行う。企業数では愛知県 195,912 者、東京都では従業員が 13,969,782 人、常用雇用者が 13,130,479 人、付加価値額では愛知県が 156,721 億円となっている（図表 6～図表 9）。

【経済センサスからみるその他各種指標等】

赤字企業の割合について確認すると、都道府県ごとの差はなく、産業ごとの差も軽微であった（図表 19、図表 20）。

また、設備投資、有形固定資産（土地を除く）、無形固定資産（ソフトウェアのみ）を回答した企業の割合であるが、いずれも規模に比例し、令和 3 年が最も高いことが共通する特徴である（図表 28、図表 29、図表 30）。

【企業活動基本調査の集計】

企業活動基本調査の集計では、まず海外における事業活動の概況について確認する。海外へ直接投資している企業の割合や、海外展開比率などは、近年では横ばいである。（図表 33、図表 34、図表 35、図表 36、図表 37）。輸出額や売上高輸出比率といった金額ベースで見ると 2020 年に一度減少し、2021 年に回復している（図表 38、図表 39、図表 40）。

次に設備投資、研究開発投資、M&A の実施の有無で企業群を分けた上で、売上、営業利益、経常利益、付加価値額、労働生産性について比較した。設備投資、研究開発投資、M&A を実施した企業ほど、2021 年度時点の売上高が増加している傾向がある（図表 41、図表 46、図表 51）。

次に子会社及び関連会社の新設及び買収に関する集計を見る。まず、買収及び新設を行って子会社・関連会社が増加した 2012 年を 100 とした企業数の推移を見ると、買収の方が新設よりも水準が高い（図表 56）。買収を行った企業について規模別に子会社・関連会社が増加状況を確認すると、中規模企業は概ね上昇基調であるが、大規模企業に関しては 2018 年以降下降傾向である（図表 58）。

【その他の経済統計】

法人企業統計調査を用いて、産業別に労働生産性の中央値を見ると（図表 59）、不動産物品賃貸業が最も高い値となっている。次に海外事業活動基本調査を用いて、設立年別に中小企業の海外子会社の国・地域構成の推移を見ると、2021 年設立の企業は 2020 年設立の企業に比べて中国と ASEAN の割合が低く、北米、欧州の割合が高いことが特徴である（図表 60）。また中小企業実態基本調査を用いて、売上高規模別に 1 社あたりの直接輸出額を見ると、売上高規模が大きい企業ほど、直接輸出額が大きくなる傾向にあることが分かる（図表 61）。

【その他の労働統計の集計】

就業構造基本統計調査を用いて、起業希望者及び起業準備者数の推移を見ると、起業希望者に関しては 2022 年が最も多く、起業準備者に関しては 2012 年が最も多いことが分かる（図表 62）。次に賃金構造基本統計調査を用いて、都道府県を東京圏、大阪圏、名古屋圏、地方部の 4 つに分類して所定内の給与額と実労働時間を確認した。差は大きくないものの所定内給与額は東

京圏が最も高く、所定内実労働時間は名古屋圏が最も高い（図表 63、図表 64）。賃金引き上げ等の実態に関する調査を用いて、常用雇用者規模別に賃金の平均改定率の推移を確認した。全ての規模において令和 2 年に一度下降し、その後徐々に上昇している（図表 65）。